

# 野岳湖公園再整備実施計画

令和 7 年7月

大村市

# 目次

1.計画の概要.....	1
1.1 計画策定の背景と目的.....	1
1.2 実施計画の位置づけ.....	3
1.3 野岳湖公園リニューアルの変遷.....	4
1.4 野岳湖公園に求められる役割.....	5
2.野岳湖公園及び周辺地域の現状.....	6
2.1 野岳湖公園及び周辺地域の概要・施設状況.....	6
2.2 野岳湖公園の位置づけ.....	9
2.3 野岳湖公園の現況.....	10
3.野岳湖公園リニューアルにおける基本方針及びテーマの設定.....	16
3.1 現状・課題及び解決すべき課題.....	16
3.2 基本方針の設定.....	17
3.3 リニューアル実現に向けたテーマ.....	18
3.4 ターゲットの設定.....	20
4.野岳湖公園全体の整備方針.....	21
4.1 空間構成(ゾーン)の設定.....	21
4.2 空間(エリア)ごとのイメージ.....	22
4.3 動線計画.....	23
5.公園全体の機能と規模.....	25
5.1 導入する機能と規模の検討.....	25
5.2 基本構想に対する実施計画での見直し内容.....	28
6.エリア別の整備方針.....	31
6.1 公園全体への施設配置.....	31
6.2 エリア別の整備方針.....	33
7.計画の進め方.....	39
7.1 今後の取組.....	39
7.2 市民や民間事業者との連携.....	39
7.3 事業手法の検討.....	40
7.4 概算事業費.....	44
7.5 整備の進め方.....	46

## 1. 計画の概要

### 1.1 計画策定の背景と目的

野岳湖公園(以下「本公園」という。)は、1661年に深澤儀太夫により築造された周囲約3キロメートルの人造湖の周辺にキャンプ場やトリム遊具、広場などアウトドアアクティビティ施設を持つ観光公園です。ハイキングやトレッキング、サイクリング、アスレチックなどのアクティビティやキャンプ、バーベキューなど市内外から多くの方に利用されています。

しかしながら供用開始から40年以上が経過し、施設の老朽化が著しいこと、旧来の設備であることや昨今のニーズにそぐわないことから、施設更新やニーズにあった施設転用が求められています。

そうした中、本市では、観光振興のための施策・事業実施の総合的な指針として「大村市観光交流都市づくり計画(2016-2025)」を策定し、四季を通して自然と歴史と人がふれあう観光交流都市を将来像に掲げ、本市の観光を持続的かつ効果的に推進していくための取り組みを進めているところです。

また、全国では、性別や世代を問わずに楽しむことのできる、地域資源を有効に活用したアウトドアアクティビティ(アウトドアスポーツ等)の人气に着目し、それを軸とした滞在型観光(アウトドア・スポーツ・ツーリズム)による地域活性化が展開されています。これにより、来訪者だけでなく、市民もアウトドアを楽しめる環境を整備することで、市民の健康増進効果、市外からのアウトドア愛好家の移住・定住の促進など、さらなる地域活性化の効果が期待されています。

これらの背景を踏まえ、令和5年度に本公園をアウトドアアクティビティの拠点として、さらなる魅力ある施設としていくための方向性や取組を取りまとめた「第1次大村市アウトドア・パークデザイン(R5.12)」(以下「基本構想」という。)を策定しました。

今回は、基本構想で示している施設整備の方向性や魅力を高める様々な取り組みの具現化に向けて「野岳湖公園再整備実施計画(以下「実施計画」という。)」を策定することとしました。

本公園及びその周辺エリアを含めたフィールドは、多良山系の豊かな自然環境や地域資源を有し、春はツクシヤクナゲ、夏はオオキツネノカミソリの群生や溪流での水遊び、秋は紅葉や彼岸花、冬には山頂付近で美しい霧氷を楽しむことができる恵まれた立地特性を持っています。これらのフィールドを活かしながら本公園における既存施設のリニューアルや集客性の高いコンテンツの整備等を行うことで、本公園を魅力的な滞在型観光拠点とし、本市の観光を持続的かつ効果的に推進していくことを目的としています。

基本構想で設定したコンセプト及び取組、導入機能の配置は下記に示す通りです。

【基本構想のコンセプト】

<p><b>「遊ぶ」を充実</b> 野岳湖公園および周辺エリアにおいて、エリア特有の資源を活用したアウトドア施設の整備やアクティビティの発掘を行い、集客機能の充実を目指す。</p>	<p><b>「泊まる」を充実</b> アウトドアアクティビティを楽しむ来訪者の滞在時間延長のためにも、様々なニーズに応じることができる宿泊機能の充実を目指す。</p>	<p><b>「つながる」を充実</b> 観光拠点を結ぶ広域的なルートやイベントの開発など、アクティビティプレイヤーの目線に立って、ソフトとハードの両面から、つながる機能の充実を目指す。</p>
--	---	--

【コンセプトの実現に向けた取組】

<p>○取組1 地域資源を最大限に活かしたアウトドア・リゾートの拠点づくり 野岳湖エリアの自然環境や多種多様な地域資源を活かし、来訪者が休息でき、余暇活動の場として滞在できる、魅力ある環境づくり</p> <p>○取組2 アウトドア・プレイグラウンドとしての賑わいの創出 自然体験や食を活かしたイベントの実施や、より集客効果の高い民間活力の導入など、アウトドア・プレイグラウンドとしての新たな賑わいの創出</p> <p>○取組3 アウトドア・スポーツを活用した地域活性化 広域的なアウトドア・スポーツを開発し、その拠点としてイベント等を開催することで、地域住民のアウトドア・スポーツに対する理解や関心、来訪者との交流を通じた地域の魅力の再認識など、地域全体でアウトドア・スポーツを盛り上げていく機運を高め、地域活性化へと波及していくよう地域に密着したアウトドア・スポーツ・ツーリズムを推進</p>
---

図 1 基本構想のコンセプト・取組

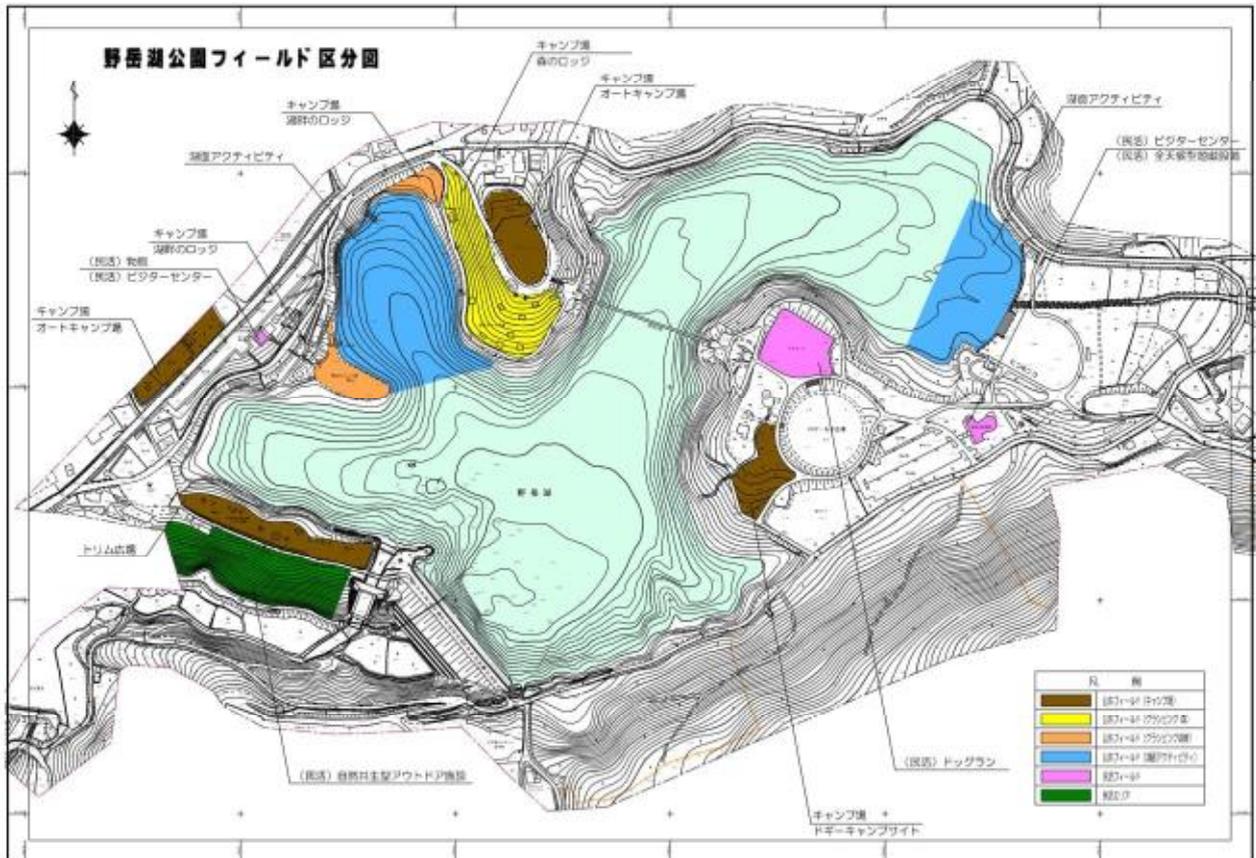


図 2 基本構想で設定した野岳湖フィールド区分図

## 1.2 実施計画の位置づけ

実施計画は「第5次大村市総合計画」や「大村市観光交流都市づくり計画(2016-2025)」と整合を図る計画とし、「大村市緑の基本計画」や「大村市景観計画」などの関連計画と連携する計画とします。

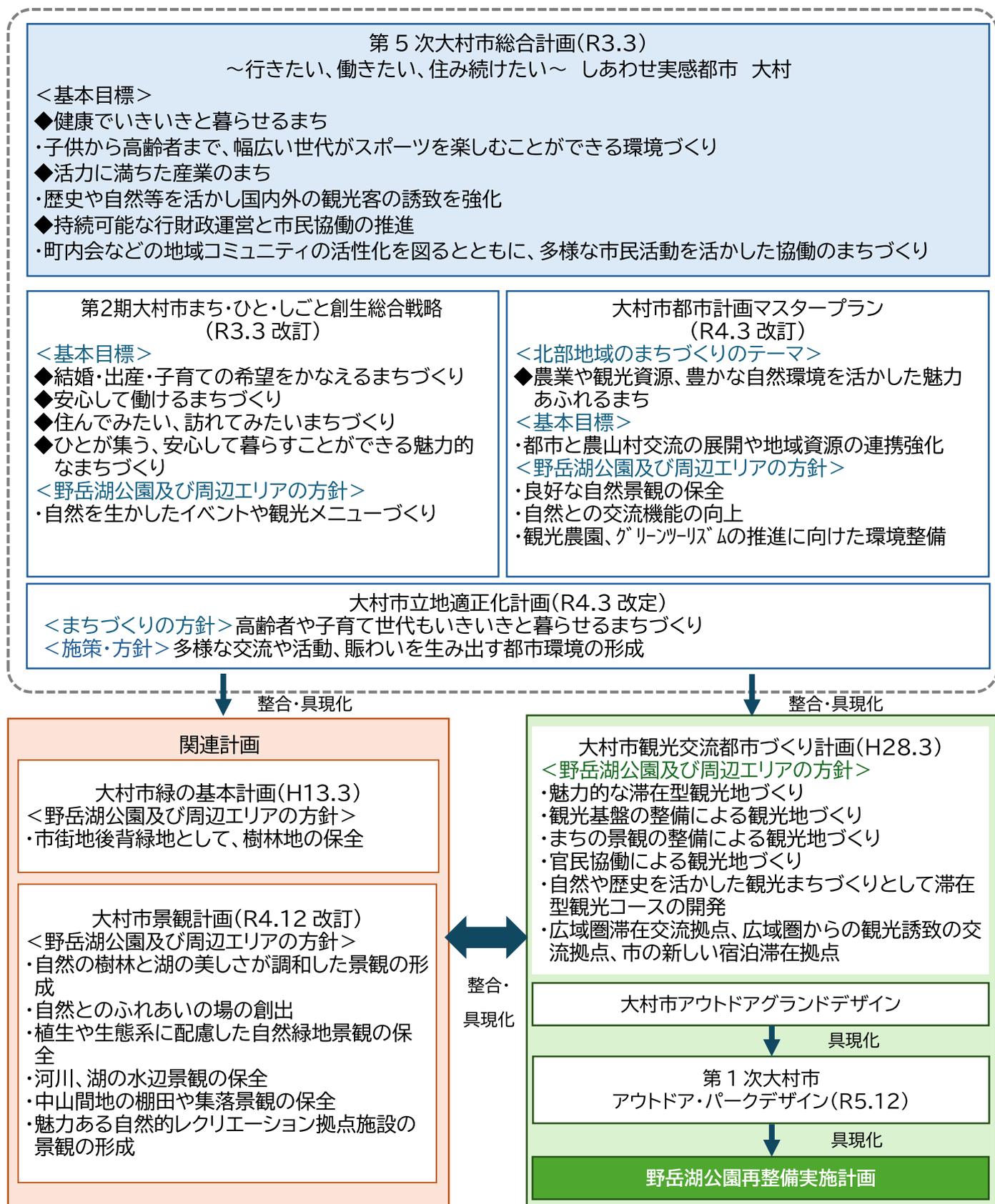


図 3 実施計画の位置づけ

### 1.3 野岳湖公園リニューアルの変遷

本市では平成 28 年に「大村市観光交流都市づくり計画(2016-2025)」を策定しています。その後、アウトドアアクティビティを新たな観光資源として捉えたアウトドア・スポーツ・ツーリズムの構築を見据えた「大村市アウトドアランドデザイン」を専門的な知見から企画・提案を受けました。さらに、「大村市アウトドアランドデザイン」を踏まえて、アウトドアアクティビティを活用した公園を中心とした観光エリアの拠点整備の方針として、令和 5 年に「基本構想」を策定しました。今回は基本構想を実現するために「基本構想」の具体化を図る「実施計画」を策定します。

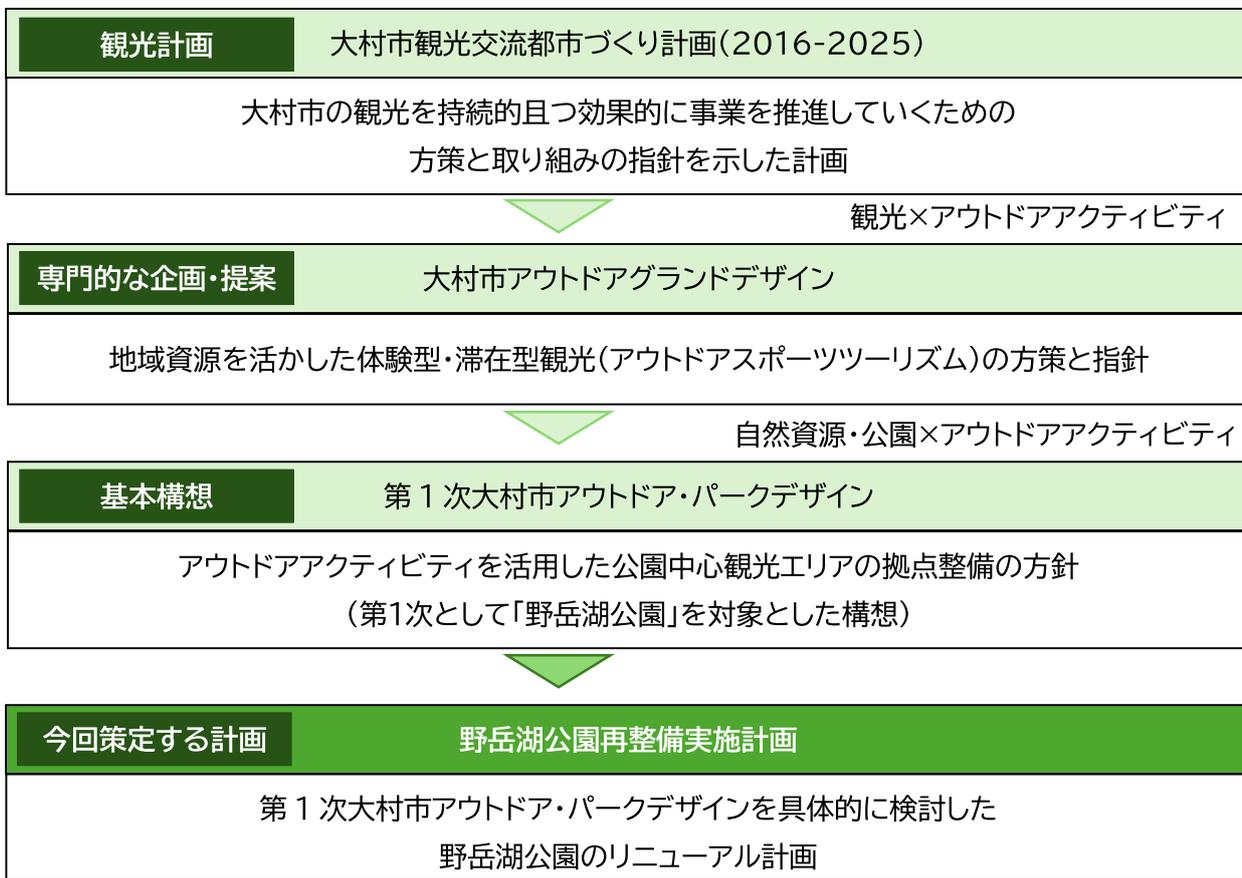


図 4 野岳湖公園リニューアルの変遷

## 1.4 野岳湖公園に求められる役割

本市が目指す観光交流都市としての将来像や関連計画で示された本公園の在り方を踏まえて、求められる役割を以下の通り整理しました。

### 【野岳湖公園に求められる役割】

#### 第5次大村市総合計画

##### ▼観光基盤の整備、観光推進体制の充実と人材育成

- ・市内を訪れる観光客が安心して快適に観光できるよう、Wi-Fi 環境、トイレ、駐車場など計画的な基盤整備に努める。また、アウトドアアクティビティを推進するため、関連施設の整備を促進する。
- ・市民や観光関連団体、ホテルや飲食店等の事業者、行政など、官民一体となった観光地域づくりを推進する。また、観光客の受け入れ環境の強化を図るため、修学旅行の実施に対する助成等を行うとともに、観光ボランティアガイドの養成など観光人材の育成に努める。

#### 大村市まち・ひと・仕事創生総合戦略

- ・豊かな自然や歴史的な史跡などを活かし、近隣の市や町と連携した滞在型観光メニューを開発するなど、魅力的な滞在型観光地づくりに取り組む。

#### 都市計画マスタープラン

- ・地域活力の維持・創出に向けて、交通環境の整備や人と人との連携を高め、都市と農山村交流の展開や地域資源の連携を強化する。
- ・観光農園、グリーンツーリズムの推進に向けた環境整備を行う。

#### その他関連計画

- ・大村市立地適正化計画 ・大村市景観計画
- ・大村市緑の基本計画

#### 大村市観光交流都市づくり計画

- ・魅力的な滞在型観光地づくり、観光基盤の整備による観光地づくり、まちの景観の整備による観光地づくり、官民協働による観光地づくりに寄与する事業を実施する。
- ・重点的な取り組みとしている自然や歴史を活かした観光まちづくりとして、癒しや交流をテーマとした滞在型観光コースの開発を行うことでリピーター客の増加を図る。
- ・野岳・松原エリアは、広域圏滞在交流拠点、広域圏からの観光誘致の交流拠点、市の新しい宿泊滞在拠点に位置づけする。

### <野岳湖公園に求められる役割>

#### ①来園者の快適で安心・安全に滞在できる空間形成

- ・エントリー層やファミリー層でも快適にアウトドアアクティビティができる拠点として野岳エリアへの集客・滞在時間延長を促進する役割
- ・アウトドアアクティビティを楽しむ来訪者やビジネス・観光周遊を目的とした宿泊客等、来訪者の多様な目的に応じた宿泊ができる宿泊拠点としての役割

#### ②アクティビティを楽しむ場の提供

- ・市民や来訪者が楽しめる自然を活用したレクリエーションの場を提供する役割

#### ③周辺事業者との連携による観光地づくり

- ・他施設との連携を行い、周辺地域の情報発信・案内を行う拠点の役割
- ・民間企業や周辺地域等との連携を促進し、地域一体となった取り組みを展開する場を提供する役割

図 5 野岳湖公園に求められる役割

## 2. 野岳湖公園及び周辺地域の現状

### 2.1 野岳湖公園及び周辺地域の概要・施設状況

#### (1) 大村市の概要

およそ9万7000人が暮らす本市は、総面積 126.7 km<sup>2</sup>、長崎県中央に位置し、長崎県の空の玄関口である長崎空港をはじめ、市内を南北に貫く長崎自動車道(大村 IC・木場スマート IC)を有し、交通の利便性が高い地域です。また、令和 4 年秋に西九州新幹線が開業し、新大村駅から佐賀県や長崎市等へのアクセスが向上したことで、県内外から新たな「ひと」・「もの」・「こと」のつながりが生まれ、観光・産業交流拠点としてかつてない発展を遂げる下地があります。

このように交通インフラが整う本市は、「ハブシティ」おおむらとして、都市間の交流、人の交流といった各地の「むすびめ」となってより快適で新しい観光のかたちを生み出していくことを目指しています。

#### (2) 野岳湖公園の位置及びアクセス

野岳湖公園は、本市北部の山間部に位置し、多良岳県立自然公園の区域内にある公園です。交通アクセスは西九州新幹線新大村駅や長崎自動車道大村 IC から約 8km(車で約 15 分)、長崎空港から約 13 km(車で約 25 分)です。また、最寄りの交通機関として JR 大村線松原駅から約 4.5 km 離れており、路線バスは野岳湖公園内に停車駅がありますが、1 日 5 本程度で便数が少ない状況です。

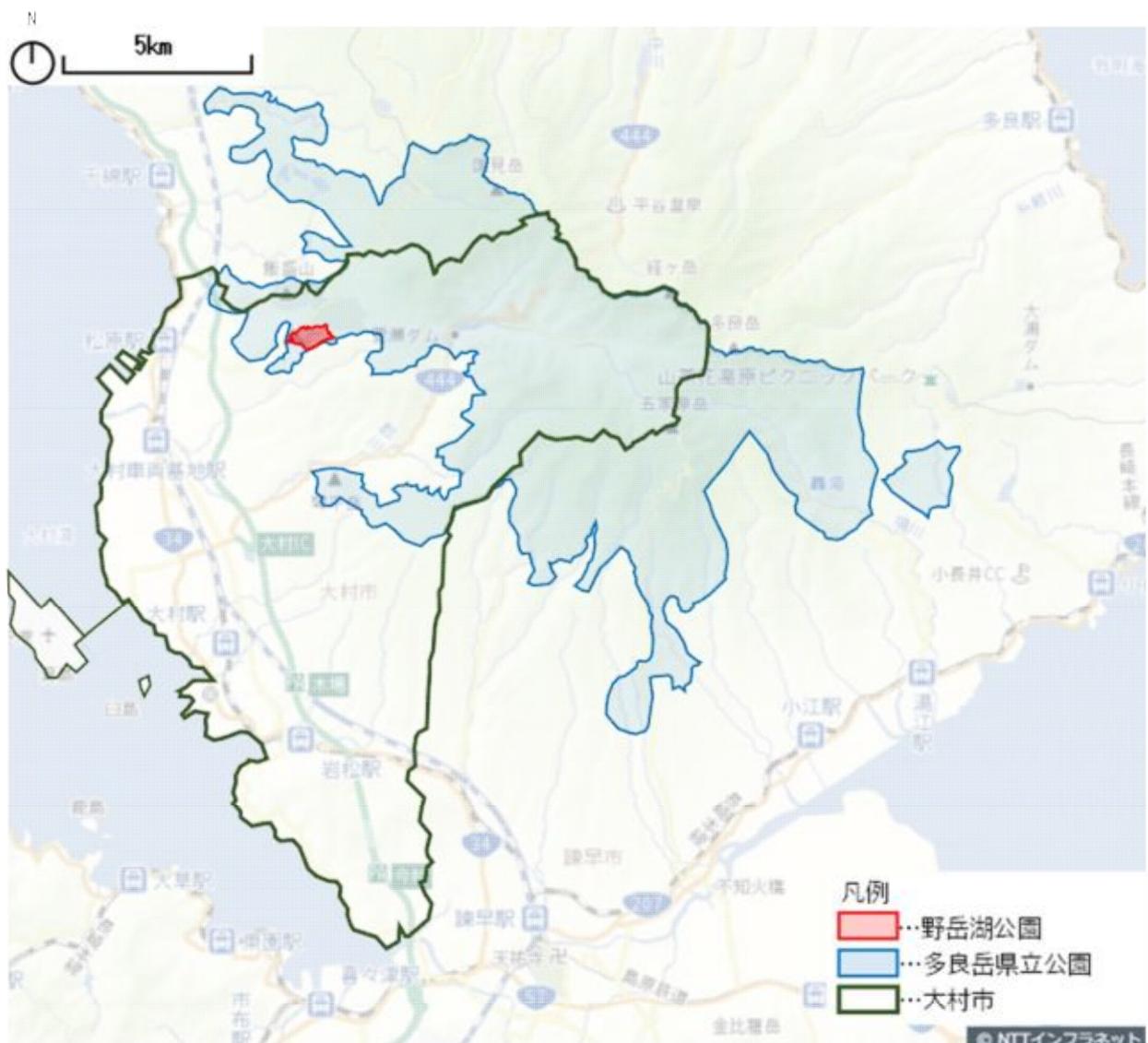


図 6 野岳湖公園位置

### (3) 野岳湖公園周辺の行政施設及び商業施設

行政施設や商業施設は、野岳湖公園から3～5km圏に位置しており、野岳湖公園から周辺には行政施設や商業施設がない状況です。

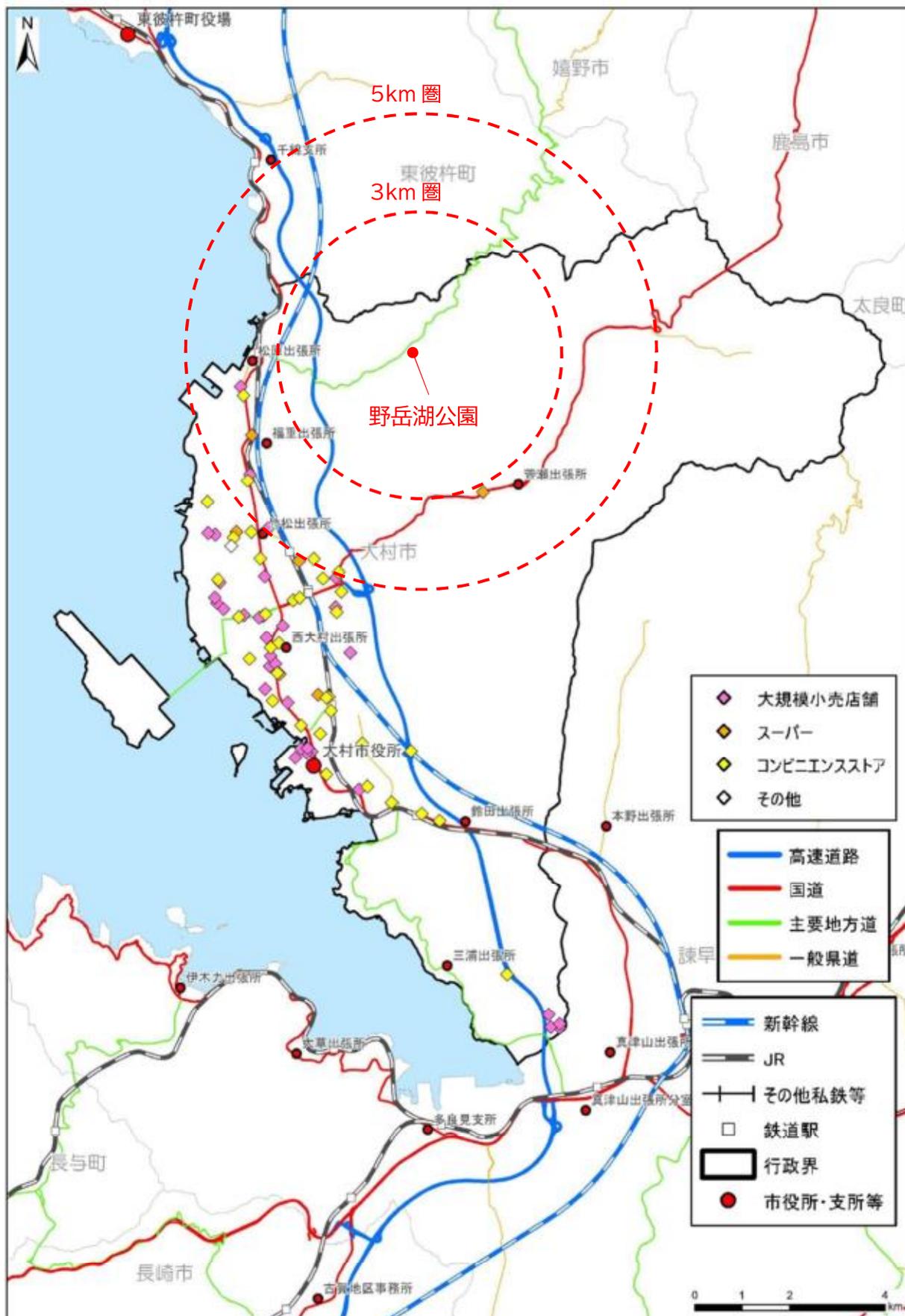


図 7 周辺商業施設等(資料:大村市地域公共交通計画に加筆)

#### (4) 野岳湖公園周辺の施設及び地域資源

野岳湖公園から東側に5 km～10 km離れた範囲には経ヶ岳、多良岳、五家原岳等で構成される長崎県と佐賀県にまたがる多良山系が位置しています。多良山系では、春の新緑、5月に咲くツクシシャクナゲ、8月初旬に咲くオオキツネノカミソリの群生、秋の紅葉、冬には山頂付近で霧氷等といった豊かな自然環境で登山やトレッキング、クライミング、散策等を四季折々で楽しむことができます。

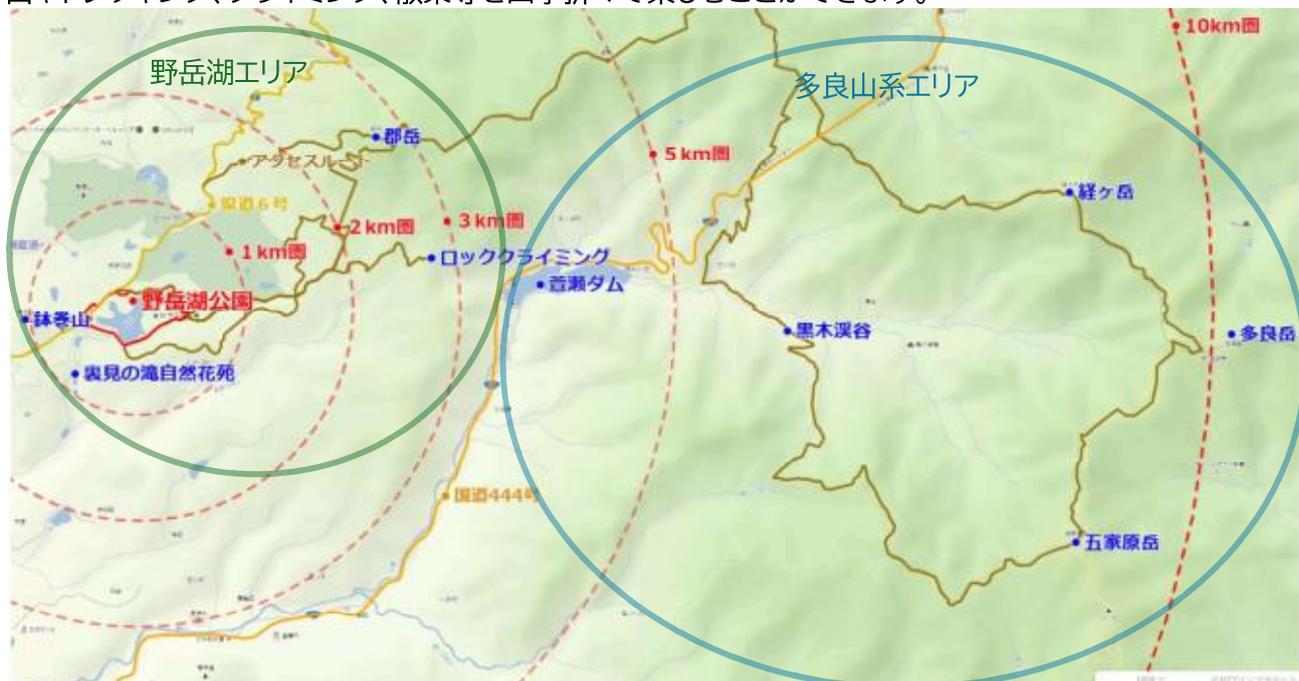


図 8 周辺施設・資源(多良山系エリア)

野岳湖公園西側の広域農道沿いに、地域特産物の直売や農業体験等を行う体験型農村交流施設があります。野岳湖公園から1km圏では、レンタサイクルや幼児向けの遊具、カフェ、体験工房などを展開されている事業者や、ミニゴルフやテニス、草スキー等ができる施設事業者、菜の花やコスモス、フルーツ狩りを楽しみ、スイーツの製造販売等を行っている事業者をはじめとした体験活動や飲食等が楽しめる施設があります。その他、シャクナゲや滝のある「裏見の滝自然花苑」やヒガンバナや大村湾の眺望を楽しめる「鉢巻山」、野岳湖公園から3 km圏には「ロッククライミング」や登山・トレッキングができる「群岳」等豊かな自然環境を楽しめるスポットがあり、来訪者が年間通して楽しめるコンテンツが充実しています。



図 9 周辺施設・資源(野岳湖エリア)

## 2.2 野岳湖公園の位置づけ

◆本市への主要なアクセスとなる長崎空港や西九州新幹線の新大村駅、JR大村線、長崎自動車道の大村ICや木場スマートICは野岳湖エリアからは離れており、市内の地域資源を回遊する際の立ち寄りが期待できない状況です。

⇒広域からの来訪の目的地となる魅力ある公園整備の必要性

◆大村湾・史跡エリア、野岳湖エリア、多良山系エリアは大村湾や郡岳、多良岳などの自然フィールドを有しており、アウトドアアクティビティを楽しむためのポテンシャルの高い魅力的なエリアとなっています。

⇒魅力的な周辺の自然フィールドでのアウトドアアクティビティを楽しんでもらうための活動・滞在ができ、周辺エリアの情報発信を行う公園整備の必要性

◆野岳湖公園の周辺には、農産物販売や飲食、レンタサイクル、自然体験等各種体験教室を行う施設が点在しており、地域一体となった魅力の発信が期待されます。

⇒周辺施設や事業者との連携や回遊を促進するための活動の場、情報発信を行う公園整備の必要性

### <野岳湖公園の位置づけ>

野岳湖公園は広域からの来訪の目的地となり、情報発信やアウトドアアクティビティの拠点機能・宿泊機能の充実による市内の回遊・滞在を促進する場とします。

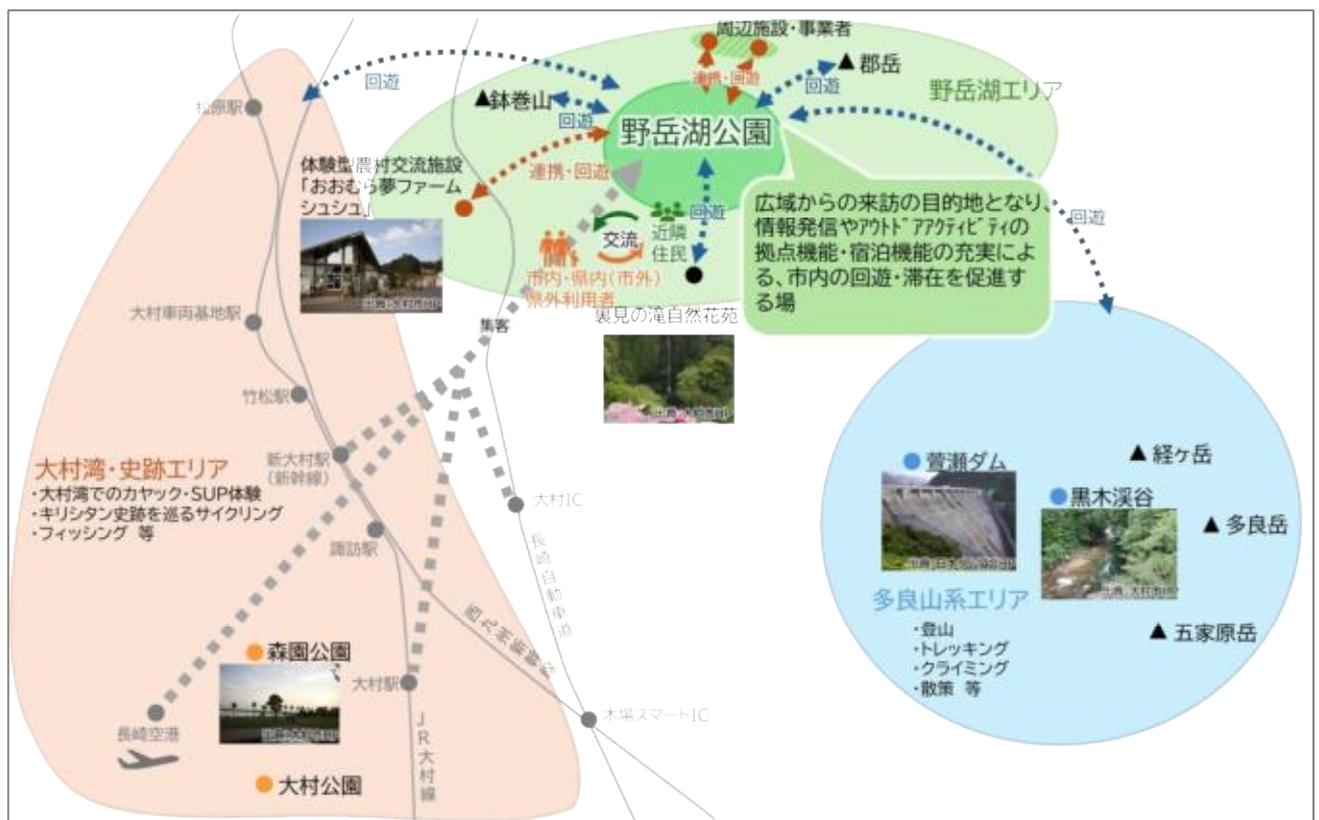


図 10 大村市における野岳湖公園の位置づけ

## 2.3 野岳湖公園の現況

### (1) 野岳湖公園の概要

本市北部に位置する「野岳湖公園」は、多良岳県立自然公園区域内に位置する約 31ha の公園です。公園の中心となる野岳湖は、1661 年(寛文元年)捕鯨で財を成したと言われる、深澤儀太夫が 1 年 7 か月の歳月をかけて完成させた、周囲 3km の人造湖です。周辺に郡岳やクライミングスポットなどのアウトドアフィールドがあり、その拠点となる野岳湖公園は、自然が豊富で、キャンプ場やトリム遊具、広場などアウトドアアクティビティ施設も有し、市内外から多くの方に利用されています。しかし、供用開始から 40 年以上が経過し、老朽化が著しく進んでいる状況です。

表 1 野岳湖公園概要

対象施設	野岳湖公園の概要
所在地	大村市東野岳町 1097 番地1ほか
面積	31.2ha
経緯	昭和 33 年:多良岳県立自然公園に指定面積 6,543ha 昭和 54 年:供用開始 平成 9 年度から平成 15 年度:農村総合整備補助事業(大村北東部地区)により再整備(施設拡充)
設置年次	・炊事棟(東サイト):昭和 47 年 ・バンガロー(東サイト):昭和 53 年 ・トリム広場:昭和 62 年 ・ロザ・モタ広場:平成 4 年 ・儀太夫記念館:平成 11 年 ・水辺の広場:平成 14 年
法令上の制限	都市計画法:都市計画区域外 自然公園法:県立自然公園 多良岳県立公園(普通地域) 文化財保護法:野岳遺跡



図 11 野岳湖公園鳥瞰写真

(2) 野岳湖公園の施設概要

公園南東側には、水遊びができる水辺の広場や多目的室、調理室などがある儀太夫記念館、イベントの開催拠点として利用されているロザ・モタ広場、グラウンド(多目的広場)などがあり、公園北側には、バンガローやテントサイト、炊事棟、シャワー設備を有するキャンプ場、管理事務所や憩いの広場があります。公園西側には、トリム広場があり、本年4月には隣接する公園敷地外に自然共生型アウトドア施設がオープンしました。



図 12 野岳湖公園の施設概要

(3) 野岳湖公園の現状と課題

1) 施設状況

施設の老朽化や十分に活かし切れていないフィールド、多様化するニーズに対応できていない状況であることから、ニーズにあった施設の更新や施設の導入が課題となっています。

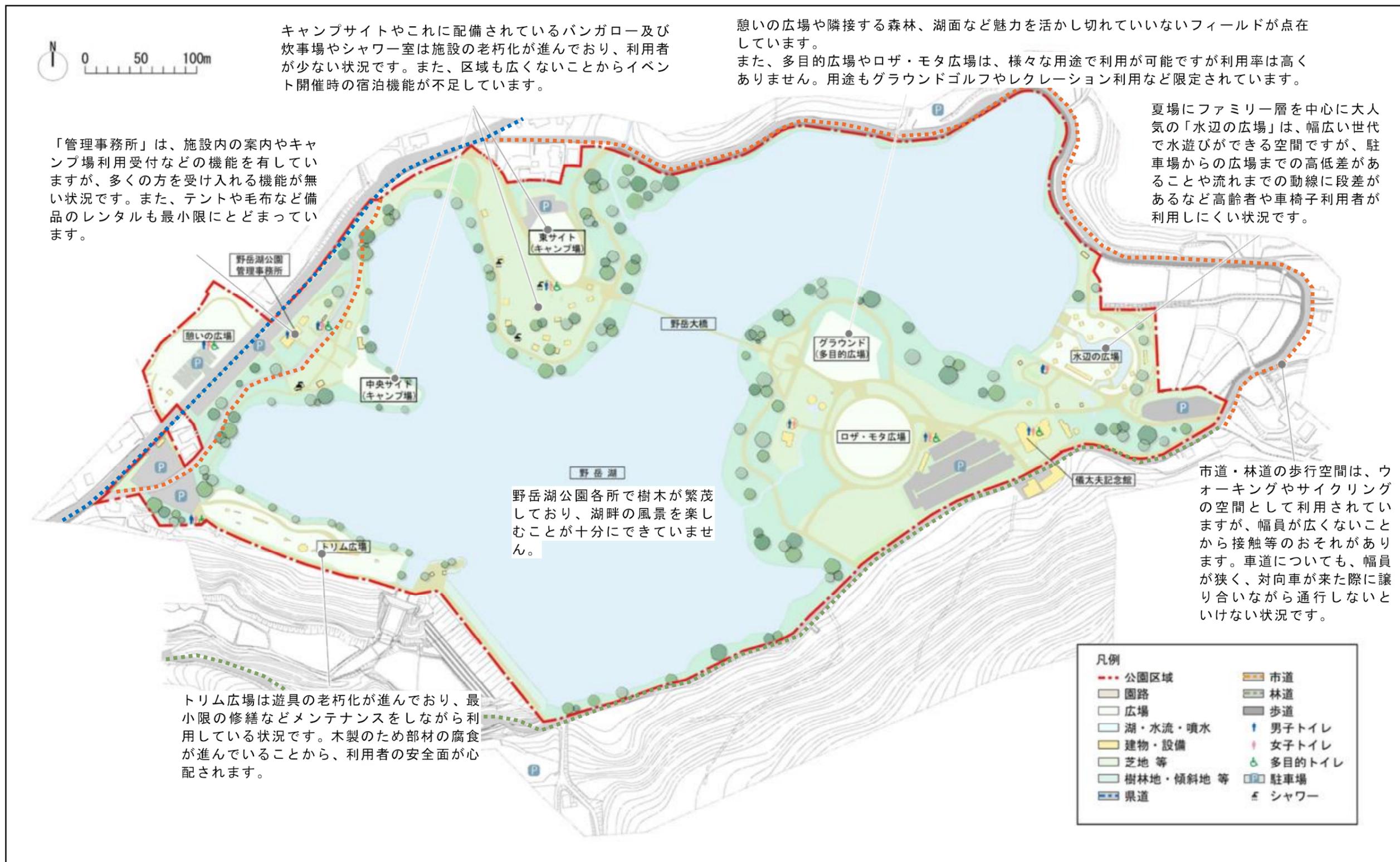


図 13 野岳湖公園の施設における現状と課題

## 2) 利用状況

公園利用者のうち日帰り利用者数の割合は、95.5%と高く、宿泊者数の割合は4.5%と低い状況です。県内(市外)の日帰り利用者数は、全体の17.2%と、市内利用者と比べ少ない割合であるものの一定程度の需要があります。宿泊利用者数の割合は、県内(市外)が44.6%と最も多く、次いで、市内が39.9%、県外が15.5%となっており、県内(市外)、市内の割合が高い状況です。

表 2 野岳湖公園利用者数及び割合(令和5年次)

利用者区分		人数(人)	日帰り・宿泊区別割合	利用者数全体に対する割合
日帰り	市内	84,454	77.5%	74.1%
	県内(市外)	19,582	18.0%	17.2%
	県外	4,878	4.5%	4.3%
宿泊	市内	2,035	39.9%	1.8%
	県内(市外)	2,272	44.6%	2.0%
	県外	790	15.5%	0.7%
合計		114,011		

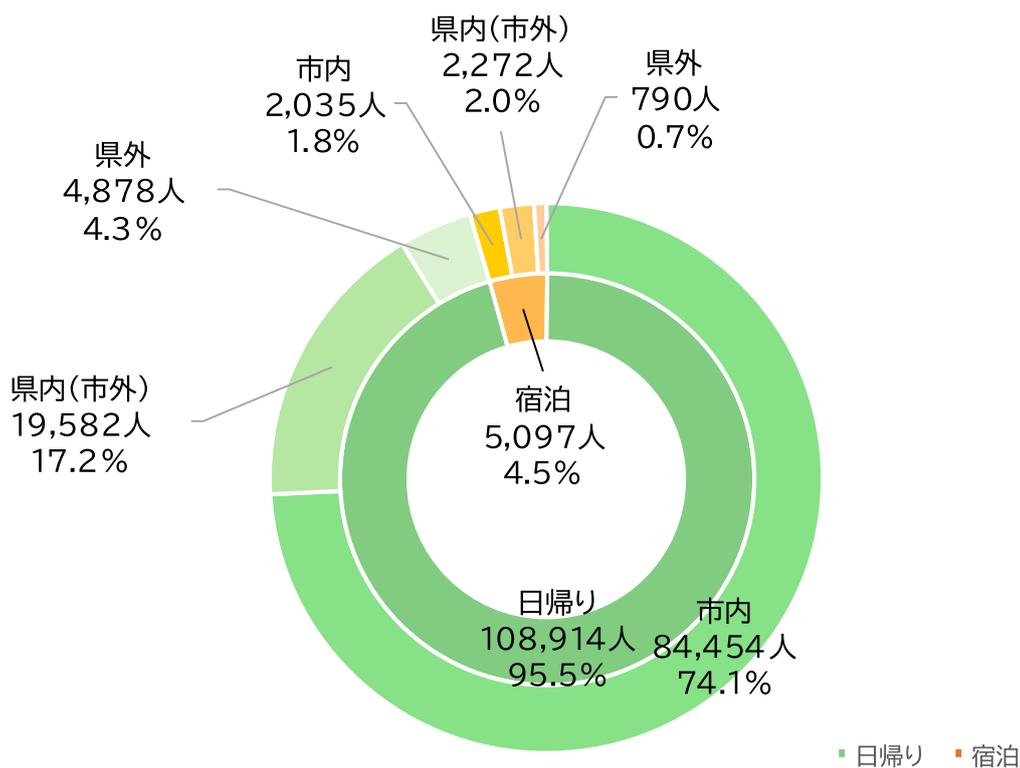


図 14 野岳湖公園利用者数割合(令和5年次)

キャンプ場利用者数について、日帰り利用は令和2年以降年間10万人を超える利用があります。宿泊利用は平成27年以降増加傾向にありますが、令和5年における宿泊利用率は4.5%と利用者数に対して低い状況です。



図 15 年間利用者数及び年間利用率推移

現在、来園者の半数以上が50代以上となっており、40代以下の利用者が少ない状況です。

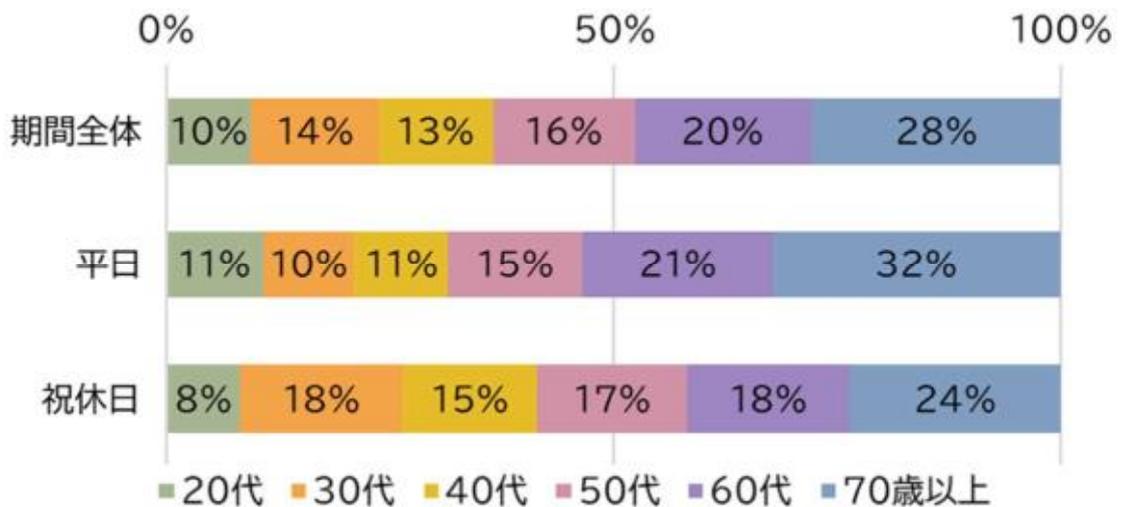


図 16 年齢層別利用者数の割合

データ提供:KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

平日、祝休日共に市内や隣接する諫早市、長崎市からの来園者が多い状況です。一定数佐賀県や福岡県など県外からの来園者もみられます。



市区町村名	居住地割合 (%)
大村市	56.5
諫早市	8.7
長崎市	8.4
東彼杵郡東彼杵町	5.5
佐世保市	5.1
福岡市南区	3.7
嬉野市	1.6
東彼杵郡川棚町	1.4
西海市	1.2
西彼杵郡長与町	1.0



市区町村名	居住地割合 (%)
大村市	54.1
長崎市	11.7
諫早市	7.9
佐世保市	6.0
東彼杵郡東彼杵町	4.0
東彼杵郡川棚町	1.9
西彼杵郡長与町	1.4
西海市	1.3
嬉野市	1.2
西彼杵郡時津町	0.8

図 17 居住地別利用者の割合

データ提供: KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

### 3. 野岳湖公園リニューアルにおける基本方針及びテーマの設定

#### 3.1 現状・課題及び解決すべき課題

これまで整理した上位関連計画及び野岳湖公園に求められる役割に加え、野岳湖公園及び周辺の施設状況、近年の公園動向や基本構想でのパブリックコメントにおける意見、プレサウンディング調査、類似施設調査(公共のキャンプ施設)から、野岳湖公園のリニューアルにおける現状・課題及び解決すべき課題を以下のとおり整理しました。

#### ①現状から見た課題 ■地域コミュニティの場としての 環境整備や情報発信が必要

- ・来訪者の7割以上が市民であり、地域コミュニティの場となっていますが、施設の老朽化が進行していることから、更新が必要です。また、40代以下の来訪者が少ないことからファミリー層が気軽に利用できる遊び場が必要です。
- ・来訪者の半数以上が50代であることから、利用しやすいなどを踏まえた施設のユニバーサルデザイン化が必要です。

#### ②パブリックコメント／プレサウンディング／ 類似施設からの課題 ■新たな利用者層を取り込むための集客力が必要

- ・子ども連れや動物連れの家族が楽しめる、泊まれる施設が求められています。
- ・湖面を使ったアクティビティや市民参加型のイベントなどが求められており、その環境整備が必要です。
- ・近年は、ファミリーなど少人数での自然体験や安らぎの空間が求められています。

#### ③上位関連計画／野岳湖公園に 求められる役割を踏まえた課題 ■野岳湖エリアの自然豊かな環境を堪能する ための環境整備が必要

- ・海や山など豊富な観光資源を有しながら十分に活かせていないことから、自然を活かした観光の推進が必要です。
- ・四季を通して観光できる施設、場所が少ないことから来訪者を野岳湖エリアの体験施設に周遊や滞在させるしかけづくりが重要です。
- ・施設の老朽化によりアスレチック遊具の更新が必要です。また、子どもから大人まで自然の中でアクティビティを楽しむ場の提供が重要です。

#### ④アウトドアスポーツツーリズム構築の課題 ■滞在型観光を促すための環境整備が必要

- ・観光客の8割は日帰り客で、市内での滞在時間、消費額が少ない状況となっています。そのため、ストーリーに沿った周遊ルートの開発、アウトドアアクティビティを始めとした体験プログラムの充実など、滞在型観光を促すための環境整備が必要です。
- ・来訪者が安心して快適に自然を満喫するためには、周遊ルートの設定をはじめ、フィールドの整備や二次交通の充実、レンタルサービスの整備など、受け入れ体制を整備することが重要です。
- ・体験できるアウトドアアクティビティやガイドツアーの情報を集約・発信する組織がなく、市内で体験できる魅力あるアクティビティの情報が効果的に発信できていないことから、周遊ルート設定やフィールド整備、受け入れ体制の整備と並行して、効果的なプロモーションを展開していくことが重要です。
- ・近隣地域と連携がないことから、広域のアウトドアスポーツツーリズムを構築するための訴求力、発信力を高める必要があります。
- ・現状、インバウンド市場を十分に取り込めているとは言えない状況であることから、今後は関係機関の連携を図り、外国人観光客に対応した受け入れ環境や体制の整備を進めていくことが必要とされています。

### 3.2 基本方針の設定

解決すべき課題を踏まえて、本公園の基本方針を以下のとおり定めます。

<解決すべき課題>

<基本方針>

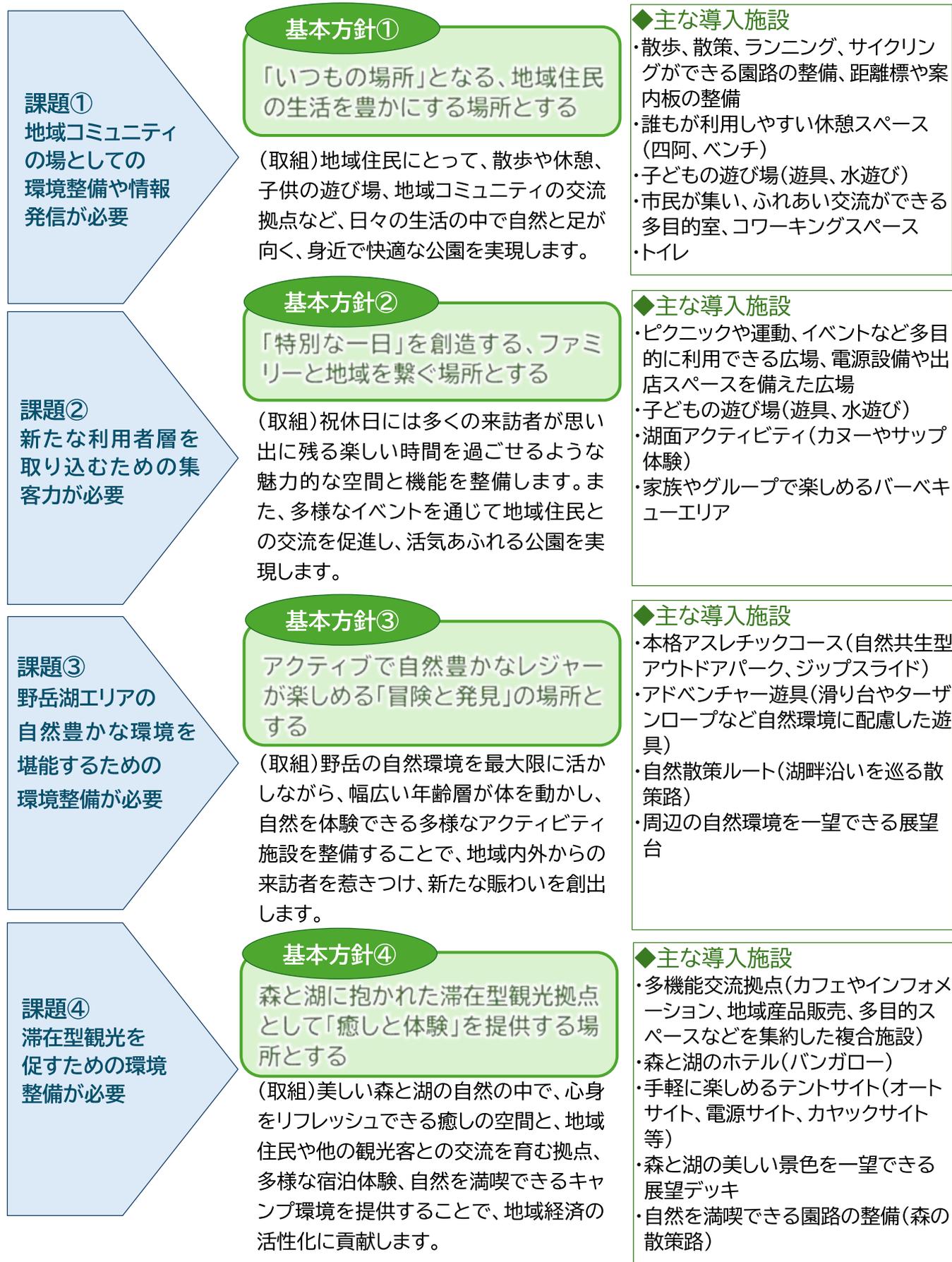


図 18 設定した基本方針

### 3.3 リニューアル実現に向けたテーマ

本公園における基本方針を踏まえて、リニューアル実現に向けたテーマを以下のとおり定めます。なお、テーマを具現化するための「基本方針」と「基本構想での取組」との関係性を次のページに示します。

#### <テーマ>

広域からのアクセスポイントとしての利便性を活かし、森と湖の舞台とした多様なアウトドアスポーツと地域交流体験を結びつけるハブとなる公園を目指します。



図 19 テーマのイメージ図

#### <基本構想でのコンセプトの実現に向けた取組>

##### ○取組1 地域資源を最大限に活かしたアウトドア・リゾートの拠点づくり

野岳湖エリアの自然環境や多種多様な地域資源を活かし、来訪者が休息でき、余暇活動の場として滞在できる、魅力ある環境づくりを行います。

##### ○取組2 アウトドア・プレイグラウンドとしての賑わいの創出

自然体験や食を活かしたイベントの実施や、より集客効果の高い民間活力の導入など、アウトドア・プレイグラウンドとしての新たな賑わいの創出を目指します。

##### ○取組3 アウトドア・スポーツを活用した地域活性化

広域的なアウトドア・スポーツを開発し、その拠点としてイベント等を開催することで、地域住民のアウトドア・スポーツに対する理解や関心、来訪者との交流を通じた地域の魅力の再認識など、地域全体でアウトドア・スポーツを盛り上げていく機運を高め、地域活性化へと波及していくよう地域に密着したアウトドア・スポーツ・ツーリズムを推進します。

表 3 「基本方針」と「基本構想での取組」との関係性

	【取組1】 地域資源を最大限に 活かしたアウトドア・ リゾートの拠点づくり	【取組2】 アウトドア・プレイ グラウンドとしての 賑わいの創出	【取組3】 アウトドア・スポーツ を活用した地域の 活性化
<p>基本方針①</p> <p>「いつもの場所」となる、地域住民の生活を豊かにする場所とする</p>	<p>○地域住民が日常的に利用され、心身共に癒やしの空間となるような拠点整備を図ります。</p>	<p>○「いつもの場所」でより高みを目指した取り組みを推進します。</p>	<p>○休息や運動といった日常使用を通じて野岳湖エリアの魅力を再認識させ、地域活性化につなげます。</p>
<p>基本方針②</p> <p>「特別な一日」を創造する、ファミリーと地域を繋ぐ場所とする</p>	<p>○県内外から訪れる来訪者の余暇活動の場となるような環境づくりを推進します。</p>	<p>○自然体験や食を活かしたイベント開催などを通して、地域住民と来訪者が一緒に参加しできる地域交流体験を通じた賑わい創出を図ります。</p>	<p>○地域住民と来訪者が一緒に野岳湖エリアを盛り上げることで一体感を高め、「特別な一日」と「特別な場所」を提供できる場所として魅力を高めていきます。</p>
<p>基本方針③</p> <p>アクティブで自然豊かなレジャーが楽しめる「冒険と発見」の場所とする</p>	<p>○野岳の森や湖といった自然を活かしたレジャーが楽しめる空間形成を図ります。</p>	<p>○アウトドア・スポーツを開発し、幅広い世代が楽しめる場として「冒険と発見」を推進します。</p>	<p>○アウトドア・スポーツを盛り上げていくことで、地域活性化を図ります。</p>
<p>基本方針④</p> <p>森と湖に抱かれた滞在型観光拠点として「癒しと体験」を提供する場所とする</p>	<p>○自然を満喫できる空間に宿泊機能を強化することで「癒やし」を提供するリゾート化を推進します。</p>	<p>○自然体験や食を活かしたイベント開催など情報を提供する滞在型観光拠点の入口として利便性の向上や賑わい創出の契機につなげます。</p>	<p>○自然学習が「体験」できる場として県内外から学校や企業研修に活用してもらうことで地域活性化につなげます。</p>

### 3.4 ターゲットの設定

基本方針やテーマを実現するために、野岳湖公園がより利用されるための方針とターゲットを設定しました。現状の利用が多い利用者層は滞在時間を延ばしつつ、利用頻度を増やし、現状の利用が少ない利用者層は県内(市外)利用者を中心に新たな利用者層として取り込む方針とします。

表 4 ターゲット及びターゲット別の方針設定

基本方針	ターゲット	公園利用
①「いつもの場所」となる、地域住民の生活を豊かにする場所とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園利用者</li> <li>・リピーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩、散策</li> <li>・遊び、運動</li> <li>・ランニング、サイクリング</li> <li>・休息、憩い</li> <li>・交流</li> <li>・コワーキングスペース</li> </ul>
②「特別な一日」を創造する、ファミリーと地域を繋ぐ場所とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園利用者</li> <li>・ファミリー層</li> <li>・県内外から初めて来訪する方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクニック、遠足</li> <li>・遊び、遊具</li> <li>・動物とのふれあい</li> <li>・バーベキュー</li> <li>・自然体験</li> <li>・飲食、物販</li> <li>・設備レンタル</li> </ul>
③アクティブで自然豊かなレジャーが楽しめる「冒険と発見」の場所とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジャー利用者</li> <li>・アウトドアスポーツ利用者</li> <li>・ファミリー層</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスレチック</li> <li>・交流</li> <li>・自然体験</li> <li>・設備レンタル</li> </ul>
④森と湖に抱かれた滞在型観光拠点として「癒しと体験」を提供する場所とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客</li> <li>・キャンパー</li> <li>・団体(学校、企業)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内、情報発信</li> <li>・休息</li> <li>・飲食、物販</li> <li>・バーベキュー</li> <li>・宿泊、更衣室、シャワー</li> <li>・自然学習、研修</li> </ul>

## 4. 野岳湖公園全体の整備方針

### 4.1 空間構成(ゾーン)の設定

野岳湖公園における現状の空間特性や施設配置、基本方針を踏まえた空間構成(ゾーン)を下図の通り設定します。

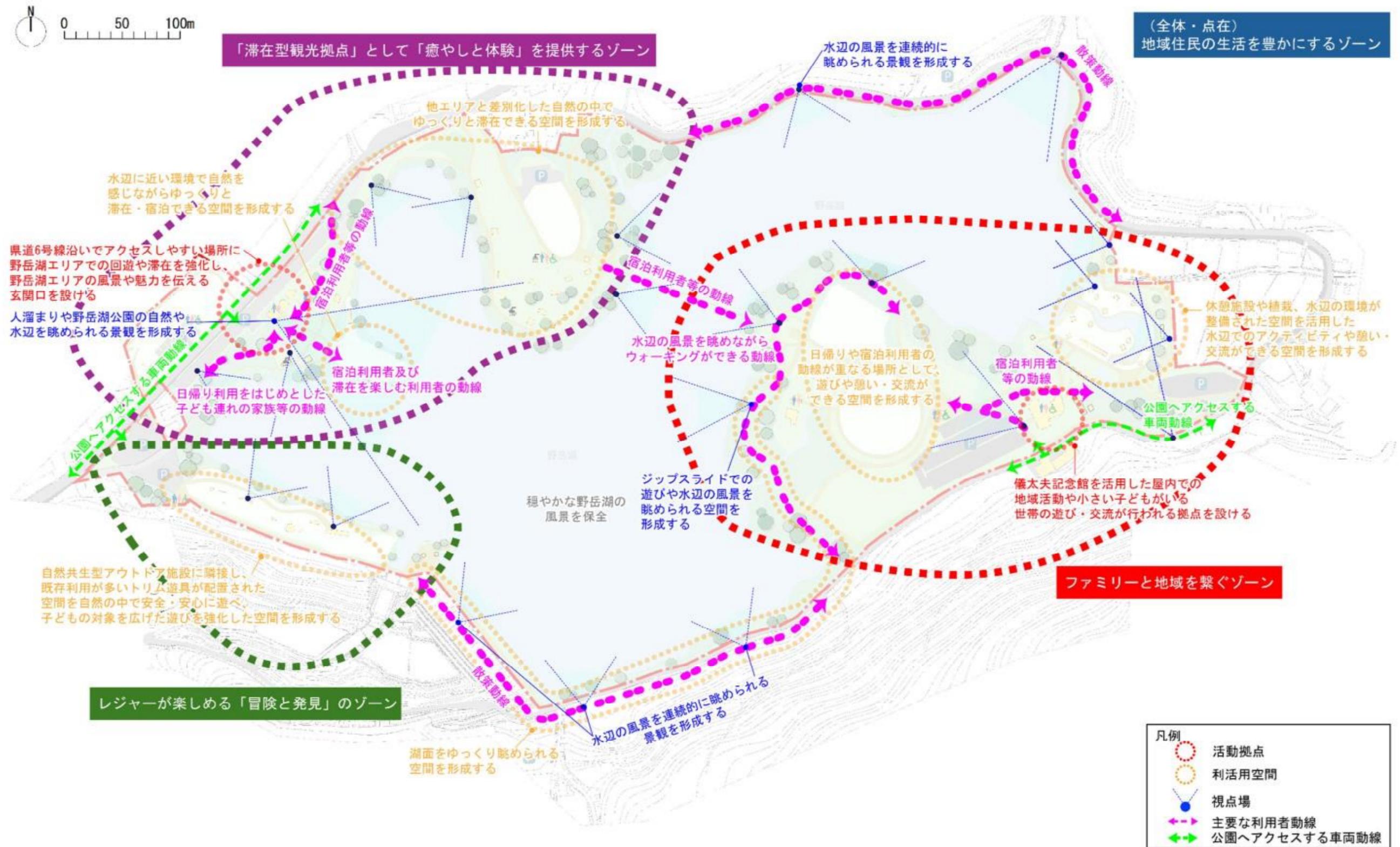


図 20 空間構成(ゾーン)の設定

## 4.2 空間(エリア)ごとのイメージ

基本方針・空間構成(ゾーン)の設定等を踏まえ、6つの空間(エリア)イメージ及びターゲットと導入機能を設定しました。また、エリアは24ページに示すとおりです。

ゾーン	エリア	ターゲット／導入機能
<div data-bbox="108 367 220 1980" style="writing-mode: vertical-rl; background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">                     地域住民の生活を豊かにするゾーン                 </div> <div data-bbox="225 367 336 904" style="writing-mode: vertical-rl; background-color: #4b0082; color: white; padding: 5px;">                     「滞在型観光拠点」として「癒やしと体験」を提供するゾーン                 </div> <div data-bbox="225 911 336 1225" style="writing-mode: vertical-rl; background-color: #008000; color: white; padding: 5px;">                     レジャーが楽しめる「冒険と発見」のゾーン                 </div> <div data-bbox="225 1232 336 1980" style="writing-mode: vertical-rl; background-color: #ff0000; color: white; padding: 5px;">                     ファミリーと地域を繋ぐゾーン                 </div>	<p><u>&lt;エントランスエリア&gt;誰もが立ち寄る地域の魅力を感じ、地域をつなぐ空間</u>                      水辺の風景や人々が活動する風景を通して、野岳湖公園や周辺エリアの魅力を感じることができる場。                      野岳湖公園や周辺エリアを回遊・滞在を促進する多目的な利用ができる場。</p>	<p>公園利用者・観光客                      キャンパー                      &gt; 散歩・散策・遊び・運動                      &gt; 飲食・物販                      &gt; 休息、憩い・交流                      &gt; 案内・情報発信                      &gt; 更衣室・シャワー                      &gt; レンタル用品貸し出し</p>
	<p><u>&lt;滞在エリア&gt;自然の中での快適な滞在ができる空間</u>                      子ども連れやアウトドアアクティビティ初心者から中級・上級者、個人や少人数グループ、団体等属性や目的に応じて滞在・宿泊ができる場。</p>	<p>観光客・キャンパー                      団体(学校、企業)                      &gt; テントサイト、オートサイト                      &gt; ムービングハウス、サテライトハウス                      &gt; バーベキュー場                      &gt; 自然学習／研修</p>
	<p><u>&lt;レクリエーションエリア&gt;自然の中での遊びを通じて自然と触れ合う空間</u>                      自然共生型アウトドア施設と連携した障害の有無にかかわらず遊びや自然との触れ合いができる場。</p>	<p>レジャー利用者・アウトドアスポーツ利用者                      ファミリー層                      &gt; アスレチック                      &gt; 交流、自然体験                      &gt; 設備レンタル</p>
	<p><u>&lt;サブエントランスエリア&gt;地域と人をつなぐ憩いの空間</u>                      野岳湖公園や周辺エリアの情報等を発信し、学びや遊び、休憩、交流等地域活動が季節や天候に左右されずに年間通して利用できる場。</p>	<p>公園利用者・ファミリー層・初来訪者                      &gt; 全天候型遊戯施設                      &gt; 休憩</p>
	<p><u>&lt;交流・イベントエリア&gt;日常から非日常の多目的な活動と交流が生まれる空間</u>                      地域の方から初来訪者も一緒に幅広い世代が集まる散歩や遊び、運動、ドッグラン、花見、星空観察、イベント開催等、多目的に年間通して利用される人・自然・食・犬等との交流ができる場。</p>	<p>公園利用者・ファミリー層・初来訪者                      &gt; ピクニック、遠足                      &gt; 多目的広場                      &gt; 遊び、遊具                      &gt; 動物とのふれあい                      &gt; 自然体験</p>
	<p><u>&lt;水辺のアクティビティエリア&gt;多様な形で水と触れ合うくつろぎの空間</u>                      水遊びや湖面でのアクティビティを通じて自然と触れ合える場。                      自然と人が触れ合う活動の風景や開放的な水辺の風景を感じながら、子どもからお年寄り、障害のある方等の誰もが憩いや交流ができるくつろぎの場。</p>	<p>公園利用者・ファミリー層・初来訪者                      &gt; 水遊び(親水設備)                      &gt; 四阿・ベンチ                      &gt; 交流、自然体験</p>

図 21 空間(エリア)別の方針とターゲット・導入機

### 4.3 動線計画

主な利用者である歩行者、自転車、自動車を対象に以下の点に配慮して動線を設定します。

○安心安全に利用していただくため、できる限り歩行者・自転車・自動車が交わらないような動線とします。

○歩行者動線はできる限り移動等円滑化の基準に適合した構造(園路幅1.8m以上、縦断勾配5%以下、滑りにくい仕上げがされた路面等(※))とします。

※地形条件や自然環境の保全の観点から厳しい場合は、上記に限りません。

表 5 動線や施設配置の考え方

対象	動線	動線・配置の考え方
歩行者	・主要動線	・エントランスエリア、サブエントランスエリアを起点として、野岳湖公園内の移動の核となる動線を配置
	・ウォーキング動線	・野岳湖公園を周回できるよう配置
	・その他動線	・日帰りや滞在・宿泊者別の施設利用者動線を確保
自転車	・サイクリング動線	・野岳湖公園内や周辺エリアを回遊できる自転車用の動線を確保 ・野岳湖公園内は歩行者と動線ができる限り交わらないような動線とし、歩行者や車両の通行に必要な幅に加えて、自転車の通行幅1.0m以上を確保 ・舗装は自転車が通行しやすいアスファルト舗装
自動車	・車両動線	・野岳湖公園内部は人中心の空間となるよう野岳湖公園の外縁部に駐車場を配置し、周辺道路から各駐車場にアクセスできる動線を確保 ・主要施設に隣接した各駐車場に、駐車場利用に配慮が必要な方が利用できるプラスワン駐車場を設置 ・団体利用者の利用が想定される滞在エリア・レクリエーションエリアにアクセスしやすく、県道からも大型車がアクセスしやすいエントランスエリアに大型車駐車場を確保
	・管理車両動線	・維持管理やイベント等での出店を行う管理車両用の動線を野岳湖公園内の各所にアクセスできる位置に確保 ・管理車両が通行可能な幅3.0m以上を確保 ・舗装は車両の乗り入れに対応したアスファルト舗装やブロック舗装
	・滞在・宿泊車両動線	・滞在・宿泊施設付近までアクセスでき、荷物の搬入や人の乗降ができる滞在・宿泊利用者のみが車両で通行できる動線を確保 ・車両どうしのすれ違いが発生する区間は園路幅4.0m以上を確保 ・舗装は車両が通行可能な幅3.0m以上を確保 ・車両の乗り入れに対応したアスファルト舗装やブロック舗装

**<エントランスエリア>**

誰もが立ち寄る地域の魅力を感じ、地域をつなぐ空間  
水辺の風景や人々が活動する風景を通して、野岳湖公園や周辺エリアの魅力を感じることができる場。野岳湖公園や周辺エリアを回遊・滞在を促進する多目的な利用ができる場。

公園利用者、観光客、キャンパー

**<滞在エリア>自然の中での快適な滞在ができる空間**

子ども連れやアウトドアアクティビティ初心者から中級・上級者、個人や少人数グループ、団体等属性や目的に応じて滞在・宿泊ができる場。

観光客、キャンパー、団体(学校・企業)

**<水辺のアクティビティエリア>**

多様な形で水と触れ合うくつろぎの空間  
水遊びや湖面でのアクティビティを通じて自然と触れ合える場。自然と人が触れ合う活動の風景や開放的な水辺の風景を感じながら、子どもからお年寄り、障害のある方等の誰もが憩いや交流ができるくつろぎの場。

公園利用者、ファミリー層、初来訪者

**<サブエントランスエリア>**

地域と人をつなぐ憩いの空間

野岳湖公園や周辺エリアの情報等を発信し、学びや遊び、休憩、交流等地域活動が季節や天候に左右されずに年間通して利用できる場。

公園利用者、ファミリー層、初来訪者

**<レクリエーションエリア>**

自然の中での遊びを通じて自然と触れ合う空間

自然共生型アウトドア施設と連携した障害の有無にかかわらず遊びや自然との触れ合いができる場。

レジャー利用者、アウトドアスポーツ利用者、ファミリー層

**<交流・イベントエリア>**

日常から非日常の多目的な活動と交流が生まれる空間

日帰り利用者や宿泊利用者、市内・県内(市外)・県外の子どもからお年寄り等が集まる散歩や遊び、運動、ドッグラン、花見、星空観察、イベント開催等、多目的に年間通して利用される人・自然・食・犬等との交流ができる場。

公園利用者、ファミリー層、初来訪者

凡例	
	公園区域
	主要動線
	車両動線
	ウォーキング動線
	サイクリング動線

図 22 エリア図

## 5. 公園全体の機能と規模

### 5.1 導入する機能と規模の検討

基本方針や取り組み、エリアの設定を踏まえて、野岳湖公園に導入する機能及び規模の詳細な検討を以下の視点から行いました。

- 野岳湖公園で強化するターゲット別に利用を促進するための施設を導入する。
- 指針や基準及び類似施設の導入事例を参考に適切な規模とする。
- 建築物の設置をできる限り抑え、管理運営がしやすい施設とするために、施設を集約し、多目的な用途で柔軟に活用できる施設とする。

表 6 導入機能と施設・規模(1/3)

導入機能	導入施設	規模		施設の内容
		現状	計画	
宿泊機能	テントサイト	東サイト 25 張 中央サイト 15 張	19区画 (定員 6 人) 100 m <sup>2</sup> 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーサイト、湖畔サイト、ドギーキャンプサイト等、自然の中でのテント泊ができる施設</li> <li>・テントの大型化等を踏まえて、面積が大きい(12m×12m=144 m<sup>2</sup>以上)サイトも導入</li> </ul>
	オートサイト	—	17区画 (定員 9 人) 120 m <sup>2</sup> 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車をテントに横付けして、自然の中でのテント泊ができる施設。オートサイトにペットを連れて宿泊できるドギーオートサイトも導入</li> <li>・テントの大型化等を踏まえて、面積が大きい(15m×15m=225m<sup>2</sup>以上)サイトも導入</li> </ul>
	ムービングハウス	5 棟 (バンガロー) (定員 10 人)	10棟 (定員 5 人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊に必要な最小限の設備(空調設備、トイレ、シャワー)がある年間通して宿泊できる環境の整った宿泊施設</li> <li>・小中学生等の団体 50 名程度が一度に宿泊できる施設</li> <li>・各棟に野岳の風景を楽しめるようデッキを配置</li> </ul>

表 7 導入機能と施設・規模(2/3)

導入機能	導入施設	規模		施設の内容
		現状	計画	
集客機能	ビジターセンター	—	2階建て 795㎡程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の多くが多目的に立ち寄る活動拠点として、以下の施設を集約 <ul style="list-style-type: none"> <li>—案内・情報発信をはじめとしてレンタル設備の提供やシャワー・更衣室等の野岳湖や周辺エリアでのアウトドアアクティビティや回遊を促進する施設</li> <li>—飲食・物販等の滞在の魅力を高める施設</li> <li>—コワーキングスペースや多目的室等の仕事や研修等多様な用途で利用できる施設</li> </ul> </li> </ul>
	★飲食	—	80㎡程度	・公園利用者が休憩や飲食ができる施設
	★物販	—	50㎡程度	・地産品やアウトドア用品の購入ができる施設
	儀太夫記念館	400㎡	既存の面積	・屋内での地域活動や小さい子どもがいる世帯の遊び・交流・休憩ができる施設(調理室・和室は既存施設を活用して地域住民をはじめとした会議や研修、休憩等に活用)
	●全天候型遊戯施設	—	集会室内を活用	・季節や天候に左右されず、乳幼児や幼児向けの小さい子どもが遊ぶことができる室内の遊び場
	アスレチック遊具広場	遊具 11基	トリム広場内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野岳の自然の中で楽しめるアスレチック木製遊具を配置</li> <li>・障害の有無にかかわらず遊びや自然との触れ合いができる施設</li> </ul>
	ドッグラン	—	1600㎡程度	・小型犬・一般犬・慣らしエリアの3エリアに分かれたリードをつけずに犬を自由に走り回らせることができる施設で、アジリティ用品の設置による遊びの要素を取り入れた施設
	ロザ・モタ広場(イベント広場)	6,000㎡	既存のロザ・モタ広場面積	・広い芝生スペースで大人数が集まるイベント開催(トレイルランニング、コンサート、キッチンカー出店等)の拠点となる施設
	多目的広場	2,800㎡	現状のグラウンド(多目的広場)と同程度の面積	・花見やグラウンドゴルフ、ボール遊び等の日常利用や星空観察の夜間利用ができ、駐車スペースとして暫定利用も可能な多目的に利用できる施設
	スポーツ広場	3,200㎡	既存の面積	・バスケットやスケートボードなどスポーツが楽しめる施設。イベント時は臨時駐車場スペースに転用が可能
	バーベキュー場兼炊事場	—	100㎡程度 ／2箇所	・夏の暑い時期や雨天時でもバーベキューができる屋根付きの施設で、レンタル用品の貸し出しや食材の提供など初心者でも気軽にバーベキューができ、フリーサイトやオートサイト、ムービングハウス等の利用者が使用可能な炊事場も兼用した施設
	湖面アクティビティ	—	釣り場の設置	・野岳湖を活用した釣りデッキ
	ジップスライド乗降場	—	—	・公園に隣接した自然共生型アウトドア施設のアクティビティの一つであるジップスライドが可能な乗降場

※★はビジターセンター内、●は儀太夫記念館内を想定

表 8 導入機能と施設・規模(3/3)

導入機能	導入施設	規模		施設の内容
		現状	計画	
利用促進機能	サニタリーハウス	—	1棟 135㎡程度	・炊事場やトイレ、シャワー、洗面所等、キャンプを行う上で必要な水回りの施設
	園路・ウォーキングコース	—	園路幅 1.8m以上	・野岳湖公園内を安全・安心に回遊でき、散歩やウォーキングを楽しめる園路・ウォーキングコース ・主要な施設間はバリアフリーに対応
	サイクリングコース	—	園路幅 1.0m以上	・野岳湖公園及び周辺エリアをレンタサイクル等で回遊できる自転車用の回遊ルート
	★多目的室	—	100㎡程度	・地域住民と観光客の交流や団体研修等に幅広い用途で活用できる室内スペース
	★ワーキングスペース	—	35㎡程度	・企業研修での会議やビジネス客・移住定住希望者等をはじめとして仕事や作業等ができるスペース
	★●案内・情報発信・休憩スペース	—	—	・案内・情報発信・休憩スペース
	駐車場	小型車415台 (身障者用含む) 大型車3台	小型車約450台 (身障者用、プラス ゾ画含む) 大型車3台	・新たに導入する機能や規模を踏まえて各エリアに必要な駐車場台数を確保 ・イベント実施や連休等の多くの利用が想定される日には、多目的広場を臨時駐車場として暫定利用可能なスペースとして確保 ※オートサイトの駐車スペースを除く
	トイレ	9カ所 男性大:10基 (うち和式9基) 男性小:18基 女性:19基 (うち和式16基) 身障者用トイレ:8基 子ども用トイレ:1基  合計:56基	8カ所 男性大:11基 男性小:15基 女性:18基 多機能トイレ:8基 子ども用トイレ:4基  合計:56基	・車いす使用者が利用でき、オストメイト対応設備やおむつ交換台、ベビーチェア等を備えた多機能トイレ ・管理事務所内トイレ及び中央サイトトイレを撤去し、ビジターセンター内のトイレに集約して配置 ・利用者の需要に対して必要基数分を拡充
	東屋・ベンチ	—	適宜	・公園各所で一時的に休憩できる東屋・ベンチ
	市道・林道の拡幅	車道幅4.5m 自転車歩行者道3m	車道幅5.5m (2.75m×2) 路肩1.0m (0.5m×2) 自転車歩行者道幅4.5m	・小型自動車どうしがすれ違いやすく、小型自動車と普通自動車のすれ違いが可能で、歩行者や自転車が安全・安心に移動できる車道幅員に拡幅

※★はビジターセンター内、●は儀太夫記念館内を想定

## 5.2 基本構想に対する実施計画での見直し内容

基本構想で設定した導入機能に関して、実施計画での見直し内容を下記に示します。

### ○既存施設の再整備

導入機能	具体例(基本方針の記載内容)	実施計画での内容
キャンプ場	利用者ニーズに即してキャンプ場を充実するとともに、既存の駐車場をリニューアルし、オートキャンプ場の機能を追加する。	東サイト(フリーサイト)を電源設備を完備したオートキャンプ場に改修する。また、湖畔にもデッキサイトを設置し、機能の充実を図る。
ユニバーサルトイレ	老朽化した既存トイレの改修、ユニバーサル化	エントランス周辺は、ビジターセンターに集約、トリム広場、南サイト上・下、水辺の広場の計4箇所をユニバーサル化(多機能化)する。
ユニバーサル園路	老朽化した既存園路の改修、ユニバーサル化	主要動線について、場所ごとの主要なターゲットに合わせた改修・ユニバーサル化を図る。
トリム遊具	老朽化したフィールドアスレチックをリニューアルし、子ども達の賑わいを創出する。	障がいの有無にかかわらず、遊びや自然とのふれあいができる広場に改修する。
ウォーキングコース	新たなコースの設定、距離標の設置	外周道路に機能を付加する。
サイクリングコース	自転車通行空間の整備、バイクラックの設置	外周道路に機能を付加する。
駐車場	老朽化した既存施設の改修、有料化の検討	憩いの広場を駐車場化するなど機能の拡充を図る。

新たな機能の検討	具体例(基本方針の記載内容)	導入コンテンツ
森のロッジ	森の中のロッジをコンセプトに既存施設をリニューアルし、機能が充実した施設として魅力向上を図る。また宿泊機能(宿泊者数)の強化を図る。	水辺の風景を身近に感じることができる湖畔沿いに必要最小限の設備(空調設備、トイレ、シャワー)が整った年間を通じて宿泊できるムービングハウス(定員5名程度)を設置し、宿泊機能の強化を図る。
湖畔のロッジ	湖畔のロッジをコンセプトに既存施設をリニューアルし、機能が充実した施設として魅力向上を図る。また宿泊機能(宿泊者数)の強化を図る。	
ドギーキャンプサイト	ペットと一緒に宿泊できるサイトの設置など、様々な利用者ニーズに対応できるように整備する。	南サイトの未利用地にペットと一緒に宿泊できるキャンプサイトを設置し、様々な利用者ニーズに対応する。
アクティビティ拠点設備	老朽化した既存施設の改修、ロッカールームやコインシャワーの追加	シャワー室付きトイレはサンタリーハウスに更新し、キャンプサイトの既存炊事場は、炊事場兼バベキュー設備に改修することで拠点設備の機能を拡充する。
儀太夫記念館	ビジターセンター機能や全天候型遊戯設備の追加	室内に遊びや交流、休憩ができる機能を付加する。【提案型:民設】
管理事務所	ビジターセンター、カフェ、地産品の物販などの便益機能の追加	多目的に立ち寄る活動拠点として、必要な機能を集約したビジターセンターに更新する。

○野岳湖公園の価値向上

新たな機能の検討	具体例(基本方針の記載内容)	導入コンテンツ
ブランディング	湖面を見渡せる眺望や森の中から眺める星空、四季折々の自然の魅力を空間として演出するなど、野岳湖公園の魅力の向上を図る。	滞在・宿泊動線には、宿を演出した意匠の園路や照明を施し、水辺の広場では、親水設備を追加しつつの空間を演出するなど、野岳公園の魅力の向上を図る。
サイン	公園内外の各施設へ誘導を行うための案内板設置	野岳湖一体でデザインの統一性を持たせたサインを設置する。
休息施設	アウトドアサウナや温浴施設等の休息できる施設の導入	自然に囲まれた空間で水辺の風景を楽しみながらサウナ体験ができる施設を導入する。【提案型：民設】
回遊設備	次世代モビリティ等の導入により、多様なニーズに対応できる回遊機能を確保する。	回遊設備については、設備の維持管理等から導入を見送る。
Wi-Fi 環境	公園内であれば Wi-Fi を無料で利用できる設備の新設(アクセスポイントの整備)	公園内であれば Wi-Fi を無料で利用できるアクセスポイントを整備する。
レンタル設備	キャンプ用品(テント等)やサイクリング用自転車、BBQ セットなどの備品の導入	ビジターセンター機能に付与【民設】
EV 充電設備	EV 車に対応した充電設備の導入	ビジターセンター前駐車場に充電設備を持たせた区画を追加する。
エネルギー設備	薪ストーブや熱利用などの ECO エネルギーを利用した設備を導入し、循環型社会の構築や社会学習の場としての価値向上を図る。	エネルギー設備については、設備の維持管理等から導入を見送る。

※青字は導入しないコンテンツを示しています。

○森林や湖などの自然や地産品など地域の強みを活かした体験価値の提供

導入機能	具体例(基本方針の記載内容)	実施計画での内容
湖面アクティビティ	カヤックやサップ体験、釣り体験	園内各所に湖畔までアクセスできる動線を配置し、展望兼釣りポイントとして利用できるデッキを整備する。
自然体験	星空観察キャンプツアー、子ども向けキャンプ体験	交流・イベントゾーン(日常から非日常の多目的な活動と交流が生まれる空間を設定)
食の体験	人が集まる食に関するイベント(地元産食材ビアガーデン、田舎暮らし体験など)の実施、キッチンカー等の民間企業との連携	ロザモタ広場にキッチンカーが出店可能なエリアを整備する。キャンプサイトに近接してバーベキュー場を整備し、体験の場として提供する。
生物観察	バードウォッチング	地域住民の生活を豊かにするエリア(外周道路に、水辺の風景や地域の自然を連続的に眺められる散策路を設定)

○新たな賑わいの場の創出

導入機能	具体例(基本方針の記載内容)	実施計画での内容
自然共生型アウトドア施設	ツリーイングやツリークライミング、ジップスライド等、ありのままの自然環境を最大限に活用した、集客性の高いレジャー施設を導入し、新たな賑わいの場を創出する。	野岳湖公園に隣接する市有林にアウトドアパークを整備。野岳湖を横断するジップスライドを新設し、新たな賑わいの場を創出する。

新たな機能の検討	具体例(基本方針の記載内容)	導入コンテンツ
ドッグラン	会員制ドッグランなど、定期的にご利用する施設を導入し、新たな利用者層による賑わいを創出する。	南サイトに新設するドギーキャンプサイトと併設する形で、ドッグランを配置し、様々な利用者ニーズに対応する。

## 6. エリア別の整備方針

### 6.1 公園全体への施設配置

導入施設および規模、ゾーニングや動線計画を踏まえ、基本計画図を作成しました。施設配置は既存の地形や自然資源の改変を最小限に抑え、既存の利用を阻害しないことを念頭に設定しています。全体配置を次ページに示し、エリア別の詳細の施設配置を33ページ以降に示します。

表9 公園全体の主な機能と規模

キャンプ場	•東サイトのフリーサイトを車が横付けしてテント泊ができるオートサイト(14区画)にリニューアルし、湖畔にもデッキサイト(4区画)を設置し、機能の充実を図る。
森／湖畔のロッジ	•水辺の風景を身近に感じることが出来る湖畔沿いに必要最小限の設備(空調設備、トイレ、シャワー)が整った年間を通じて宿泊できるムービングハウス(10棟※1棟あたり定員5名ほど)を設置し、宿泊機能の強化を図る。
ビジターセンター	•多目的に立ち寄る活動拠点として、レンタル用品の提供や周辺施設に関する情報発信機能など必要な機能を集約したビジターセンターに更新する。
ドギーキャンプサイト	•南サイトの未利用地にペットと一緒に宿泊できるキャンプサイト(5区画)を設置し、多様なニーズに対応する。
ドッグラン	•南サイトに新設するドギーキャンプサイトと併設する形で、ドッグランを配置し、多様なニーズに対応する。
自然共生型アウトドア施設	•野岳湖を横断するジップスライドを新設し、新たな賑わいの場を創出する。トリム広場を障がいの有無にかかわらず、遊びや自然とのふれあいができる広場にリニューアルする。
湖面アクティビティ	•園内各所に湖畔までアクセスできる動線を配置し、展望兼釣りポイントとして利用できるデッキを整備する。
食の体験	•ロザモタ広場にキッチンカーが出店可能なエリアを整備する。キャンプサイトに近接してバーベキュー場(2棟)を整備し、食の体験の場として提供する。
アクティビティ拠点	•シャワー室付きトイレはサンタリーハウスに更新し、キャンプサイトの既存炊事場は、炊事場兼バーベキュー設備に改修することで拠点設備の機能を拡充する。
ウォーキングコース／サイクリングコース	•外周道路に機能を付加する。
駐車場	•憩いの広場を駐車場化するなど機能の拡充を図る。(415→約450台)
ユニバーサルトイレ	•エントランス周辺は、ビジターセンターに集約、トリム広場、南サイト上・下、水辺の広場の計4箇所を、オストメイト対応設備やおむつ交換台等を備えたトイレにユニバーサル化(多機能化)する。

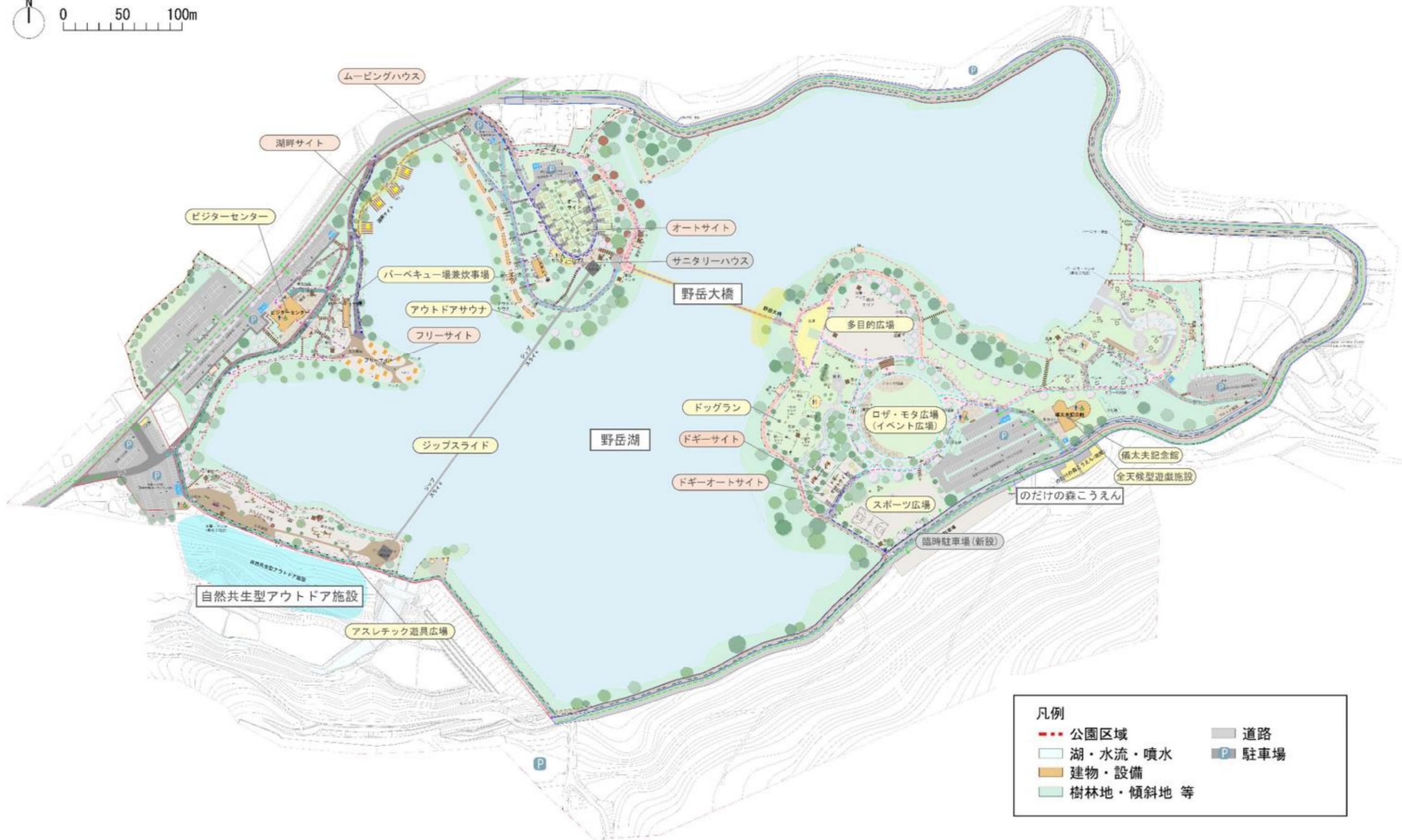
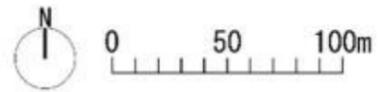


図 23 基本計画図(全体)

## 6.2 エリア別の整備方針

(1) エントランスエリア:誰もが立ち寄る地域の魅力を感じ、地域をつなぐ空間 / 滞在エリア:自然の中での快適な滞在ができる空間



図 24 エントランスエリア、滞在エリア

【ビジターセンター】※立面や間取りは想定。

○現地は高低差が大きく、施設整備の空間も限られていることから2階建ての建物とします。

○2階部分は駐車場と近接しており、短時間利用者も多いことが考えられるため、物販や飲食・案内・トイレ等、利用目的が多いと考えられるスペースを配置します。

○飲食や物販スペースは野岳湖側の景色を楽しんでもらうよう野岳湖側に配置します。

○飲食スペースとしても利用可能なテラス空間を設けて、屋外で自然を感じながら滞在できる空間を確保します。

○2階東側にスタッフの配置が必要な機能を集約し、受付機能を1か所に集約してスタッフ人数を最小化しやすい配置とします。

○2階駐車場からビジターセンターに入ると正面に公園の景色が見えるように通路、共有空間を配置します。

○1階、2階ともに南側は公園の景色が望めるよう、一部ガラス張りとしています。

○1階部分は小学生や企業研修でも活用できる多目的室を設置し、多様な活動ができるよう、グラスウォールを収納し、屋外空間と連続した空間とします。

○トイレ、シャワー、飲食スペース等、水廻りは西側に集約します。

○1階コワーキングスペース、トイレ、シャワー、更衣室は24時間利用を想定し、まとまった配置とします。

〈平面構成〉



〈断面構成〉

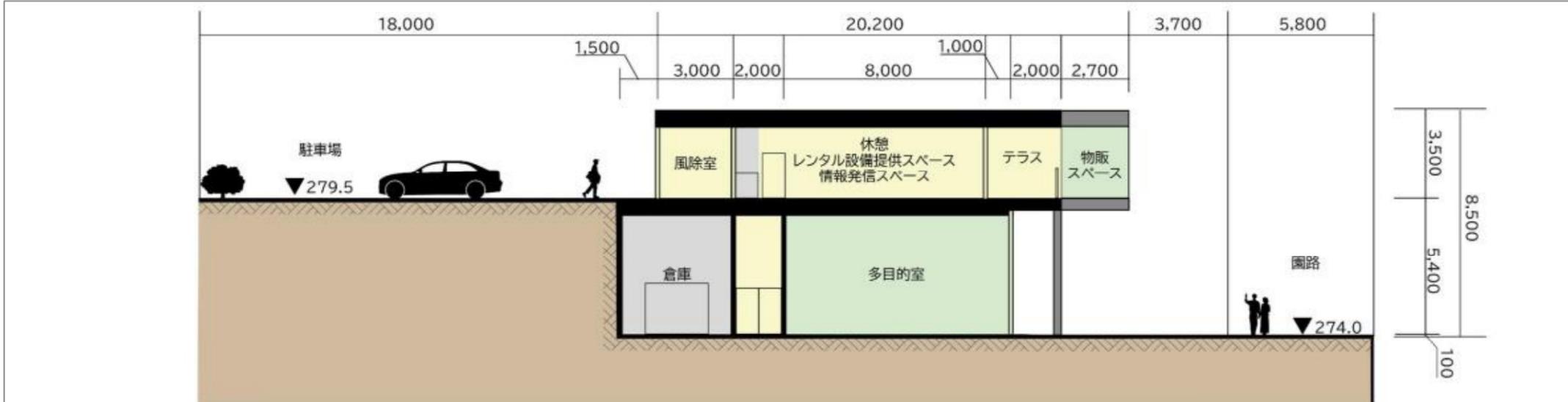


図 25 ビジターセンター平面構成・断面構成

(2) 滞在エリア:自然の中での快適な滞在ができる空間

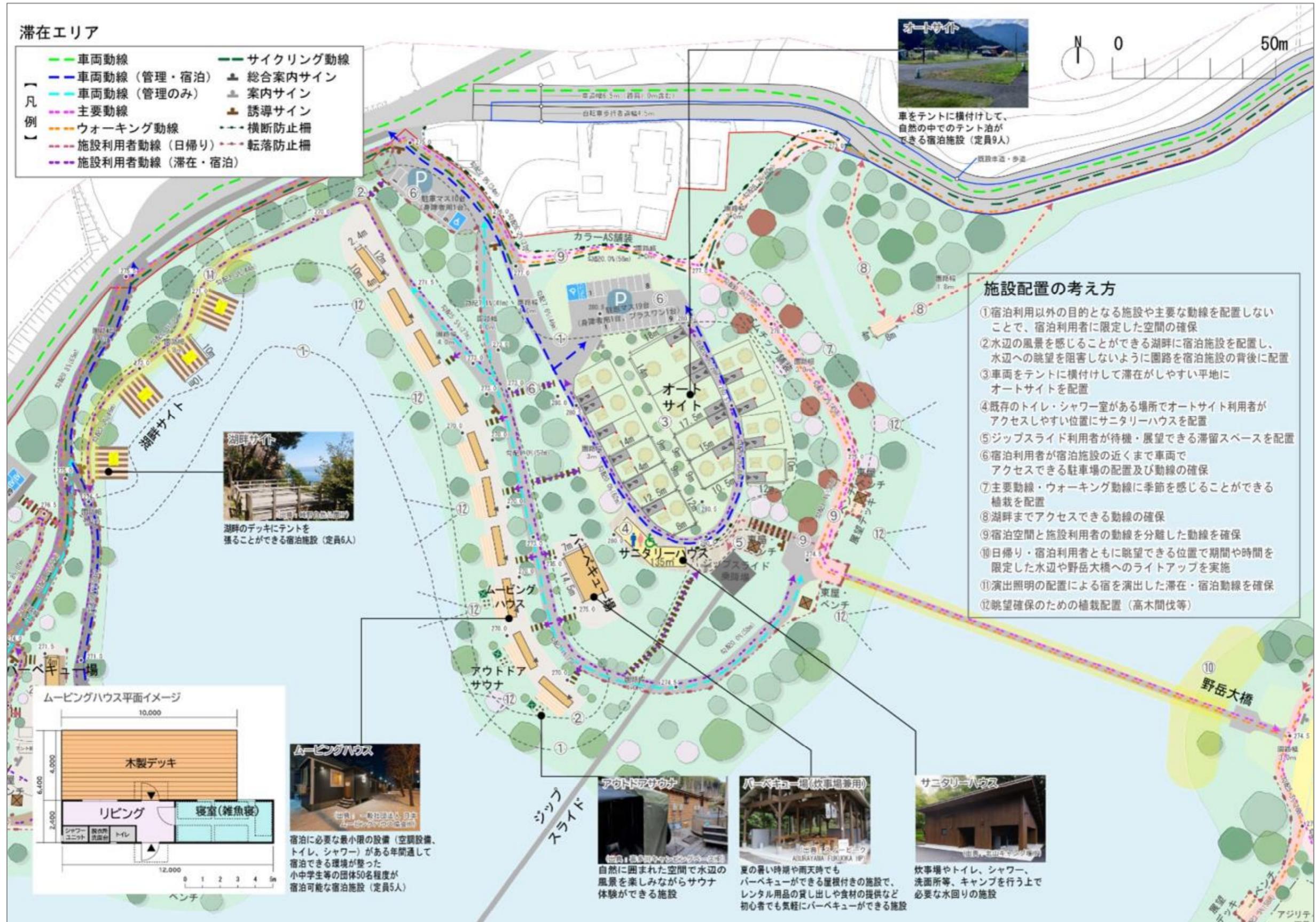


図 26 滞在エリア

(3) レクリエーションエリア:自然の中での遊びを通じて自然と触れ合う空間



図 27 レクリエーションエリア



(5) 水辺のアクティビティエリア:多様な形で水と触れ合うくつろぎの空間



図 29 水辺のアクティビティエリア

## 7. 計画の進め方

### 7.1 今後の取組

前章までに示した計画内容を実現するために、今後、各施設を管理運営している関係団体などと調整を行いながら、事業手法の検討や事業化に向けた取組を進めます。

### 7.2 市民や民間事業者との連携

新たな賑わいの創出や本市観光の魅力と活力の向上などに役立てるため、公園管理に携わる行政のみならず、市民や民間事業者など、まちづくりに関わる多種多様な主体と協働、連携しながら公園の活性化につながる取組を進めます。

#### (1) 市民との連携

「ファミリーと地域を繋ぐゾーン」の交流・イベントエリアやサブエントランスエリアの花壇や緑地は、コミュニティーガーデン(※1)制度の導入など、市民の方々と協力、連携しながら整備していく方法を検討します。これにより、市民が地域社会に貢献する場となり、また多くの方々がふれあい、交流活動などを通じてコミュニティを形成する場となることが期待されます。

#### (2) 民間事業者との連携

「癒やしと体験を提供するゾーン」の滞在エリアや、「冒険と発見のゾーン」のレクリエーションエリアなどの施設の整備や管理運営には、民間事業者の創意工夫やアイデア等を活かす DBO(※2)などの官民連携手法の活用を検討します。これにより、公園内の施設の充実や良質なサービスの提供が図られ、集客力や話題性が向上するとともに、施設の整備や維持管理に係るコスト低減が期待されます。また、民間事業者との包括連携協定(※3)に基づく取組も推進していきます。

※1 コミュニティーガーデンとは、地域住民が自主的に集まり、花や植物、野菜などを栽培する「地域の庭」のこと。一般的な公園が行政により管理・運営されるのに対し、場所の選定から企画・運営まで、地域住民が責任をもって自主的に担うことが特徴。

※2 DBO は、「DBO 方式」とも呼ばれ、行政(公共団体等)が資金調達と施設所有を行う一方で、民間事業者が施設の設計・建設と運営(運転管理・維持管理)を委託する方式のこと。

※3 大村市と株式会社モンベルとの連携と協力に関する包括協定(平成31年4月)

大村市と株式会社フォレストアドベンチャーとの包括連携協定「森活でわんぱくを育てる協定(令和7年予定)」

### 7.3 事業手法の検討

#### (1) 官民連携事業の方式

本公園における官民連携事業の方式については、基本構想で整理された事業スキームの方向性を基に、下記の考え方を基本とします。

- 維持管理を見据えた設計や管理運営の効率化により財政負担を軽減できる手法であること。
- 利用者へのサービス提供の質を高めることができる手法であること。
- 市や市民の意向を反映しやすい手法であること。

なお、基本的な事業手法の特徴については、表 10 に示すとおりです。

表 10 官民連携事業方式の種類

	従来方式・指定管理者	DBO 方式	DB 方式・指定管理者	設置管理許可
事業スキーム	<p>行政が設計・整備を行い、民間事業者が管理運営を行う方式</p>	<p>民間事業者が設計・整備・運営を一括受注する方式</p>	<p>民間事業者が設計・整備を一括受注する方式</p>	<p>民間事業者が設計・整備・管理運営を行う方式</p>
施設所有	市	市	市	市
資金調達	市	市	市	民間
施設整備	市	民間	民間	民間
管理運営	民間	民間	民間	民間
期間(目安)	3～5年	設計・整備期間+20年	1～5年	10年
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主事業など民間事業者のノウハウを取り入れたサービス機能の向上が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者のノウハウにより、コスト縮減や効率的な運営が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者のノウハウにより、コスト縮減や効率的な設計・整備が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者のノウハウにより、コスト縮減や効率的な設計・整備・管理運営が可能</li> <li>・資金調達は民間事業者が行い、行政に使用料収入が支払われることから、コストの縮減が可能</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提供サービスの継続性や連続性を保ちづらい</li> <li>・長期的な経営視点に立った投資が困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者が施設整備するため、公共施設としての必要条件の設定が必要</li> <li>・長期的な契約のため、社会情勢の変動等のリスク検討が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者が施設整備するため、公共施設としての必要条件の設定が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者が施設整備するため、公共施設としての必要条件の設定が必要</li> <li>・長期的な契約のため、社会情勢の変動等のリスク検討が必要</li> <li>・民間事業者が資金調達を行うことから、民間事業者の事業参画の障壁となる可能性がある</li> </ul>

## (2) エリア・施設別の事業手法

プレサウンディング調査では、野岳湖公園において民間事業者が参画しやすい方法として、公共側での整備費用の負担や管理運営区域の絞り込みに関する意見が挙げられました。

これらを踏まえ、エリア・施設別の事業手法の基本的な考え方は下記のとおりとします。

○公園区域外の市道・林道の拡幅については、公共が整備・管理運営を行う(公設・公営)

○公共が整備を行い、民間事業者が管理運営を行う(公設・民営)ことを基本として、公共サービスの提供が主となる施設については従来方式・指定管理者の活用を検討する。

○民間事業者のノウハウを活かした施設整備により魅力向上を図る施設については、DBO方式またはDB方式の活用を検討する。

表 11 エリア・施設別の事業手法(1/2)

エリア	対象施設	事業手法
エントランス エリア	ビジターセンター 上段:全体 下段:飲食、物販	DB方式+指定管理者 ※運営は公園全体の指定管理者 管理許可
	バーベキュー場	従来方式・指定管理者
	管理施設(園路、駐車場、ベンチ、東屋、サイン、柵、展望デッキ)	
滞在 エリア	ムービングハウス	従来方式・指定管理者
	サニタリーハウス	
	フリーサイト、オートサイト、湖畔サイト	
	バーベキュー場	
	管理施設(園路、駐車場、ベンチ、東屋、サイン、柵、展望デッキ、釣りデッキ、植栽、照明)	
レクリエーション エリア	ジップスライド	DB方式+管理許可
	アスレチック遊具広場	
	管理施設(園路、駐車場、ベンチ、東屋、サイン、柵、トイレ)	従来方式・指定管理者

表12 エリア・施設別の事業手法(2/2)

エリア	対象施設	事業手法
交流・イベント／サブエントランス エリア	ロザ・モタ広場 (イベント広場)	従来方式・指定管理者
	多目的広場	
	スポーツ広場	
	ドギーサイト、ドギーオートサイト	
	ドッグラン	
	儀太夫記念館 全天候型遊戯施設	設置管理許可
	健康遊具、幼児遊具 管理施設(園路、駐車場、ベンチ、東屋、サイン、柵、展望デッキ、釣りデッキ、照明、トイレ、花畑)	従来方式・指定管理者
水辺のアクティビティエリア	親水施設	従来方式・指定管理者
	管理施設(園路、駐車場、ベンチ、東屋、サイン、柵、トイレ、手摺)	
その他 公園区域外	市道・林道の拡幅	従来方式・直営

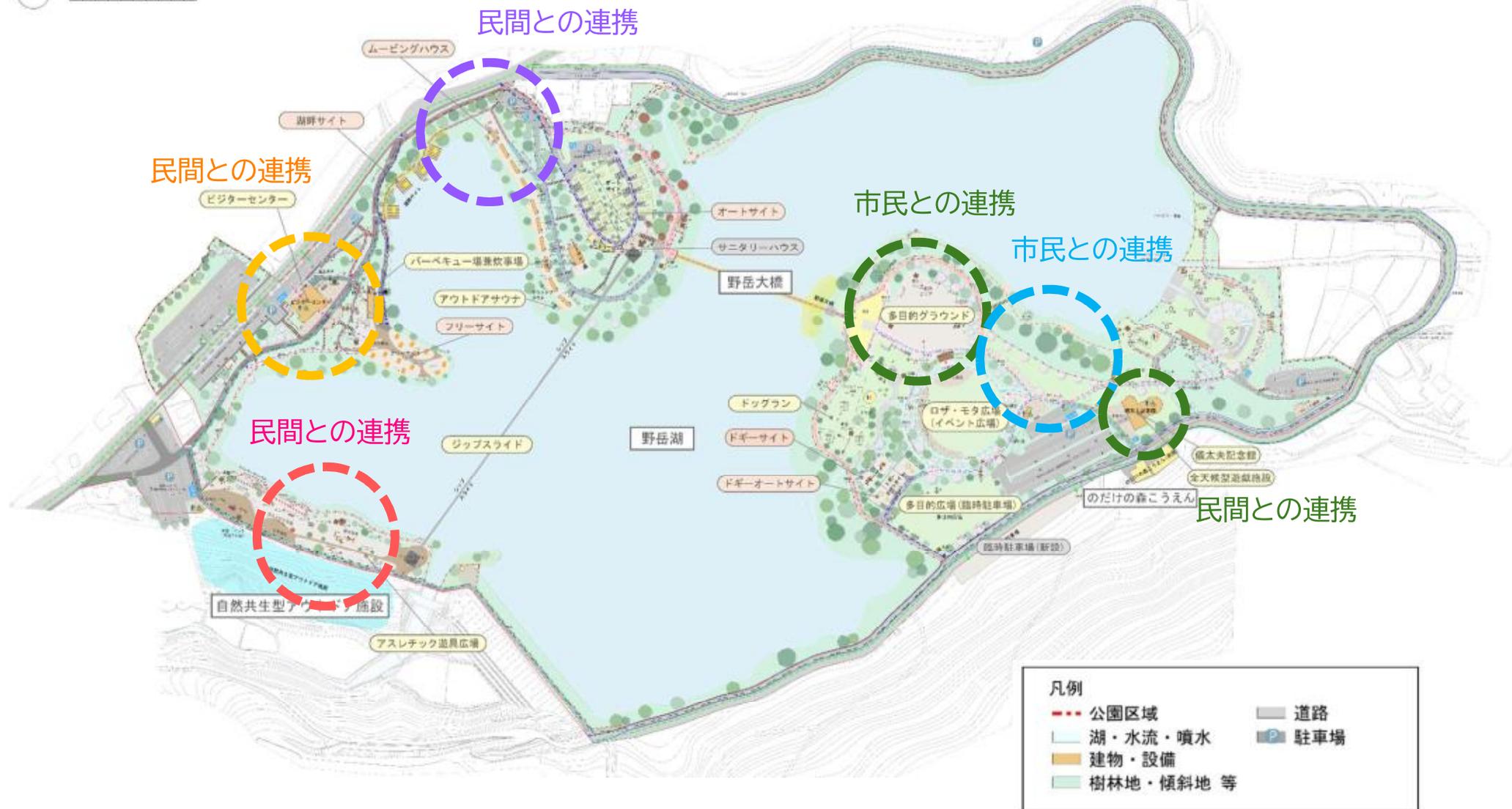
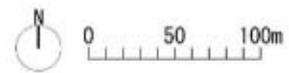


図 30 区域・施設別の事業手法

## 7.4 概算事業費

### (1) 全体の概算事業費

基本方針に対応した導入機能と事業手法を踏まえた概算事業費は以下のとおりです。  
野岳湖公園再整備における全体事業費は約 54 億 2 千万円を見込んでいます。

表13 エリア別概算事業費一覧

エリア	施設	事業費(億円)
エン ト ラ ン ス	ビジターセンター	9.4億円
	バーベキュー場	
	駐車場	
	園路	
	給排水・電気設備	
	既存施設撤去	
	その他管理施設	
滞 在	キャンプ場	12.7億円
	サニタリー／バーベキュー	
	駐車場	
	園路	
	給排水・電気設備	
	既存施設撤去	
	その他管理施設	
レ ク リ エ ー シ ョ ン	アスレチック遊具	6.3億円
	トイレ	
	駐車場	
	園路	
	給排水・電気設備	
	既存施設撤去	
	その他管理施設	
交 流 ・ イ ベ ン ト	ロザモタ広場	10.1億円
	ドギー／ドギーオートサイト	
	トイレ	
	駐車場	
	園路	
	給排水・電気設備	
	既存施設撤去	
	その他管理施設	
水 辺 の ア ク テ ィ ビ	親水施設(噴水)	3.1億円
	トイレ	
	駐車場	
	園路	
	既存施設撤去	
	その他管理施設	
外周道路整備・汚水管整備他		12.6億円
合計		54.2億円

※自然共生型アウトドア施設は含みません

※事業費は、令和7年7月時点での想定であり、今後の検討の深度化や社会情勢の変化に伴う建設資材、人件費などの変動により、変動する可能性があります。

(2) 事業手法別の事業費

事業手法別には直営で約12億6千万円、官民連携で約41億6千万円を見込んでいます。

表14 事業手法別概算事業費一覧(公設)

事業手法	施設	事業費(億円)
直営	外周道路整備・污水管整備他	12.6 億円
指定管理	キャンプ場	35.6 億円
	サニタリー／バーベキュー	
	ロザモタ広場	
	ドギー／ドギーオートサイト	
	駐車場	
	トイレ	
	園路	
	親水施設(噴水)	
	給排水・電気設備	
	既存施設撤去	
その他管理施設		
DB方式 +指定管理	ビジターセンター	3.8 億円
	給排水・電気設備	
	既存施設撤去	
DB方式 +管理許可	アスレチック遊具	2.2 億円
合計		54.2 億円

※事業費は、令和7年7月時点での想定であり、今後の検討の深度化や社会情勢の変化に伴う建設資材、人件費などの変動により、変動する可能性があります。

## 7.5 整備の進め方

本計画は、おおむね10年から15年後の将来像を実現するために必要な具体的な取り組みを示したものです。各取り組みを進めるに当たっては、事業に係る投資が高額になり、期間が長期になることから、社会情勢の変化や来園者のニーズなどを十分考慮しながら、段階的な整備を行います。

その中でも、短期的に実現が可能なものや、新たな賑わいの創出や本市観光の魅力と活力の向上などに効果が高いと考えられる施設設備などは、前期計画として優先的に取り組んでいきます。

表 15 整備プログラム 事業スケジュール表

	前期計画							後期計画
	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
事業化								
エントランスエリア			駐車場					ビジターセンター・管理施設
						BBQ場		ユニバーサル園路
滞在エリア				キャンプ場・サニタリーハウス				
					BBQ場・ユニバーサル園路			
レクリエーションエリア					駐車場・ユニバーサルトイレ			
			トリム広場・ユニバーサル園路					園路・管理施設
交流・イベントエリア				ドギーキャンプ場・ドッグラン				
			ユニバーサルトイレ			ロザモタ広場		ユニバーサル園路・管理施設
水辺のアクティビティエリア				親水設備				ユニバーサル園路
								ユニバーサルトイレ・管理施設
外周道路ほか	外周道路整備・Wi-Fi環境・アクセス道路整備							
公共下水道	汚水本管整備（特定環境保全公共下水道）							

表 16 基本方針別の概算事業費(前期計画)

基本方針	主な導入機能	事業費(億円)
①「いつもの場所」となる、地域住民の生活を豊かにする場所とする	・ユニバーサルトイレ／園路 ・ウォーキング／サイクリングコースの整備	19.7億円
②「特別な一日」を創造する、ファミリーと地域を繋ぐ場所とする	・自然体験／食の体験(イベント広場整備) ・儀太夫記念館	1.1億円
③アクティブで自然豊かなレジャーが楽しめる「冒険と発見」の場所とする	・自然共生型アウトドア施設 ・トリム遊具／湖面アクティビティ	3.2億円
④森と湖に抱かれた滞在型観光拠点として「癒しと体験」を提供する場所とする	・キャンプ場／森、湖畔のサイト ・食の体験(BBQ場)	9.6億円

【整備プログラム概算事業費】

野岳湖公園のエリア別の概算事業費は、以下の通りです。

表 17 エリア別の概算事業費

エリア	施設	事業費(億円)	前期		後期	
エン ト ラ ン ス	ビジターセンター	9.4億円		1.7億円	○	7.7億円
	バーベキュー場		○			
	駐車場		○			
	園路					
	給排水・電気設備		○			
	既存施設撤去		○			
	その他管理施設		○			
滞 在	キャンプ場	12.7億円	○	12.7億円		0.0億円
	サニタリー／バーベキュー		○			
	駐車場		○			
	園路		○			
	給排水・電気設備		○			
	既存施設撤去		○			
	その他管理施設		○			
レ ク リ エ ー シ ヨ ン	アスレチック遊具	6.3億円	○	3.4億円		2.9億円
	トイレ		○			
	駐車場		○			
	園路					
	給排水・電気設備		○			
	既存施設撤去		○			
	その他管理施設		○			
交 流 ・ イ ベ ン ト	ロゼモタ広場	10.1億円	○	2.2億円		7.9億円
	ドギー／ドギーオートサイト		○			
	トイレ					
	駐車場		○			
	園路					
	給排水・電気設備					
	既存施設撤去		○			
その他管理施設	○					
水 辺 の ア ク テ ィ ビ	親水施設(噴水)	3.1億円	○	1.0億円		2.1億円
	トイレ					
	駐車場					
	園路					
	既存施設撤去		○			
	その他管理施設		○			
外周道路整備・污水管整備他	12.6億円	○	12.6億円		0.0億円	
合計	54.2億円		33.6億円		20.6億円	

※短期的に実現可能なものや、新たな賑わいの創出や本市の観光の魅力と活力の向上などに効果が高いと考えられる施設整備から優先的に取り組んでいきます。

【整備箇所図】

